基 本 計 画 書

	基		本			計		連	Ī		
事	項		記		入		į	欄		備	考
計	画の区分	学部の学科の設	'置								
フ =n	リ ガ ナ	ガッコウホウジン		ガクエン							
設フ	置 者 リ ガ ナ	学校法人 酪農 ラクノウガクエン									
大	学の名称	酪農学園大学	7 1747								
大	学本部の位置	北海道江別市文	京台緑町58	2番地							
大	学 の 目 的	キリスト教の精神 もって神を愛し、 を目的とする。									
新	設学部等の目的	農環境情報学類は よる情報解析及び け、人と自然が共 きる人材を養成す	調査・収集 生する持続	したデータ	の分析・活用	同に関する農	学の専門的	りな知識と技術	ドを身に付		
	新設学部等の名称		編入学 定 員	収容 定員	学位	学位の分		设時期及 開設年次	所在地		
設学		年人	年次	人				年 月			
部	農食環境学群		人		and the same			年次			
Ø	農環境情報学類	4 80	-	320	学士(農学)	農学関係			海道江別市 文京台緑町		
概要	計	80	-	320					582番地		
		農食環境学群	(+0)	() := > ::	A T	<u> </u>					
	一設置者内における変	循環農学類食と健康学類	〔定員減〕	(△20) (4	令和 8年4月) 令和 8年4月)						
更 (状の移行、	環境共生学類	〔定員減〕	(△20) (4	令和 8年4月)						
名	称の変更等)	■ 酪農学研究科 ■ 酪農学専攻修士 フードシステム		員増〕	(6) (令和 8년 ^ 6) ※今和8年		信 止				
	共乳学如笠の女孙			**(廃止) (2		17 于王芬果	TT.	太光 而 小	五字粉		
教育課程	新設学部等の名称 	講義	演習		実験・実習	計		卒業要件	半沙数		
14个1生	農環境情報学類	117 科目	25	科目	14 科目	156	科目		124 単位		
	学部等の名称	7	********	γ 11. ± 1. ±σ.	基幹教員	pl. ±/.	⇒ 1	助手	基幹教員以外の教員		
			教授 	准教授	講師人	助教人	計		(助手を除く)		
新	農食環境学群 農環境情	報学類	7	4	3	0	14	0	75		
	a. 基幹教員のうち、専ら当該、	学部等の教育研究に従事	(7) 7	(4)	(3)	(0)	(14) 14	(0)	(45)	大学設置	
	する者であって、主要授業	科目を担当するもの	(7)	(4)	(3)	(0)	(14)	∄\	\	表第一イ る基幹教 四分の三	員数の
	b. 基幹教員のうち, 専ら当該でする者であって, 年間8単 するもの(aに該当する者:	位以上の授業科目を担当	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	\	\	6人	-25
	小計 (a~b)		7	4	3	0	14	1\	\		
設	c. 基幹教員のうち, 専ら当該		(7)	(4)	(3)	(0)	(14)	╢ \	\		
	る者であって、年間8単位」 るもの(a又はbに該当す	る者を除く)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	╢	\		
	d. 基幹教員のうち, 専ら当該: る者以外の者又は当該大学の つ専ら当該大学の複数の学	の教育研究に従事し, か	0	0	0	0	0	\	\		
	る者であって、年間8単位」 するもの(a, b又はcに該	以上の授業科目を担当	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	\	\		
	計 (a ~ d)		7 (7)	4 (4)	3 (3)	0 (0)	14 (14)]	/ /		
分	計		7	4	3	0	14	0			
			(7)	(4)	(3)	(0)	(14)	(0)	(—)		

		11	7	2	0	20	0	67	
既 上	T	(14)	(7) 7	(2)	(0)	(23) 20	(0)	(67)	大学設置基準別
	a. 基幹教員のうち, 専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって, 主要授業科目を担当するもの	11 (14)	(7)	(2)	(0)	(23)	\	\	表第一イに定め る基幹教員数の
	b. 基幹教員のうち, 専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって, 年間8単位以上の授業科目を担当	0	0	0	0	0	\	\	四分の三の数 9人
	するもの(aに該当する者を除く)	(0) 11	(0)	(0)	(0)	(0)	\	\	
	小計 (a~b)	(14)	(7)	(2)	(0)	(23)	\	\	
	c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの(a 又は b に該当する者を除く)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		\	
	d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、か	0	0	0	0	0	\	\	
	つ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって,年間8単位以上の授業科目を担当するもの(a,b 又はcに該当する者を除く)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)		\	
	計 (a~d)	11 (14)	7 (7)	2 (2)	0 (0)	20 (23)	\		
_	A A THE LAW AND A A A A A A A A A A A A A A A A A A	10	6	4	0	20	5	76	1
是	と健康学類 食と健康学類	(11)	(6)	(4)	(0)	(21)	(5)	(76)	
	a. 基幹教員のうち, 専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって, 主要授業科目を担当するもの	10 (11)	6 (6)	4	0	20 (0)	\	Λ	大学設置基準別表第一イに定め
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事	0	0	(4)	(0)	0	\	\	る基幹教員数の 四分の三の数 8人
	する者であって,年間8単位以上の授業科目を担当 するもの(aに該当する者を除く)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	\	\	87
	小計 (a~b)	10 (11)	6 (6)	4 (4)	0 (0)	20 (21)	\	\	
	c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの(a 又は b に該当する者を除く)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	\	\	
	d. 基幹教員のうち, 専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し, か	0	0	0	0	0	\	\	
	つ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの(a、b又はcに該当する者を除く)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)		\	
	計 (a~d)	10	6	4	0	20	\] \	
没 =		(11)	(6) 6	(4)	(0)	(21) 16	2	63	¥
	養食環境学群 環境共生学類	(8)	(6)	(4)	(0)	(18)	(2)	(63)	
	a. 基幹教員のうち, 専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって, 主要授業科目を担当するもの	6	6	4	0	16	\	\	大学設置基準別表第一イに定め
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事	(8)	(6)	(4)	(0)	(0)	\	\	る基幹教員数の 四分の三の数 7人
	する者であって,年間8単位以上の授業科目を担当 するもの(aに該当する者を除く)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	\	\	17
	小計 (a~b)	6 (8)	6 (6)	4 (4)	0 (0)	16 (18)	\	\	
	c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当す	0	0	0	0	0		\	
	るもの(a 又は b に該当する者を除く)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	\	\	
	d. 基幹教員のうち, 専ら当該大学の教育研究に従事す る者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し, か つ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事す	0	0	0	0	0	\	\	
	る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの(a, b又はにに該当する者を除く)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	\	\	
	計 (a~d)	6 (8)	6 (6)	4 (4)	0 (0)	16 (18)	\] \	
当	大医学群 獣医学類	25 (25)	14 (14)	21 (21)	8 (8)	68 (68)	15 (15)	65 (65)	
	a. 基幹教員のうち, 専ら当該学部等の教育研究に従事	25	14	21	8	68	(10)	(30)	大学設置基準別 表第一イに定め
	する者であって、主要授業科目を担当するもの	(25)	(14)	(21)	(8)	(0)	\	\	表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの(aに該当する者を除く)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	\	\	15人
	小計 (a~b)	25 (25)	14 (14)	21 (21)	8 (8)	68 (68)	\	\	
	c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの(a 又は b に該当する者を除く)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		\	
	d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す	0	0	0	0	0	\	\	
	る者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し,かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって,年間8単位以上の授業科目を担当するもの(a,b又はに該当する者を除く)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)		\	
分	計 (a~d)	25	14	21	8	68	\		
		(25)	(14)	(21)	(8)	(68)		<u> </u>	Y

	_						1 -		,	10	0	100	1
既	獣	医学群 獣医保健看	護学類	Ę	7 (7)	3 (3)	(1		1 (1)	12 (12)	0 (0)	108 (108)	
		a. 基幹教員のうち, 専ら当 する者であって, 主要授			7 (7)	3 (3)	1 (1		1 (1)	12 (0)		\	大学設置基準別 表第一イに定め る基幹教員数の
		b. 基幹教員のうち, 専ら当 する者であって, 年間8	単位以上	の授業科目を担当	0	0	C)	0	0		\	四分の三の数 6人
		するもの (aに該当する 小計 (a~b)	る者を除く)	(0) 7	(0)	(((0)	(0) 12			
⊐ n.		c. 基幹教員のうち、専ら当	á該大学の	教育研究に従事す	(7)	(3)	(1		(1)	(12)		\	
設		る者であって, 年間8単 るもの(a又はbに該当	(位以上の	授業科目を担当す	(0)	(0)	(((0)	(0)	\	\	
		d. 基幹教員のうち、専ら当る者以外の者又は当該人	で学の教育	研究に従事し, か	0	0	C)	0	0	\	\	
		つ専ら当該大学の複数の る者であって,年間8単 するもの(a, b又はcl	(位以上の	授業科目を担当	(0)	(0)	(0))	(0)	(0)	\	\	
		計 (a~d)			7 (7)	3 (3)	1 (1		1 (1)	12 (12)	\	\	
分		<u></u>			59	36	3:	2	9	136	22		
		^	⇒ 1		(65) 66	(36)	(3:	_	(9)	(142) 150	(22) 22	(—) —	
		A miles	計		(72)	(40)	(3	5)	(9)	(156)	(22)	(—)	
		職	種			専 属	人		その他	人	計	· 人	
:	事	務	職	員		88 (88)			26 (26)		11 ⁴ (114		
	技	術	職	員		22 (22)			9 (9)		31 (31)		
	図		職	員		3			4		7)	
						(3)			(4)		(7)		
	そ	の 他 <i>の</i>	· ·	職 員		(0)			(0)		(0)		
:	指	導補	助	者		(0)			(0)		(0)		
		計				113 (113)			39 (39)		152 (152		
校		区 分		専	Ħ	共	用		共用する 学校等の		計		
地		校舎敷地	也	238,	770 m²		0	m²	7 12 7	$0 m^2$	2	38, 770 m²	
等		そ の 他			139 m²		0			0 m²		60, 139 m²	ł I
- 1		合 言	+	1, 198,			0	m²	共用する	0 m ²		98, 909 m²	
		拉			Ħ	共	用		学校等の	専用	計		
		校舎		70, 82 (70, 82	7 m² 27 m²)	(0 0 m²		($0 ext{ m}^2$ $0 ext{ m}^2$		70, 827 m ² , 827 m ²)	
教	室	 ・ 教 員 研 究	室	教	室						, , ,	14 室	大学全体
				図書			学行	「 特雑誌			機械・器具	具 標本	
図		新設学部等の名称	(うち外国書〕		子図書 ち外国書〕	〔うち	外国書		イジャーナル うち外国書〕		点点点	機器・器具及 び標本につい
書・		食環境学群	23	3, 835 [1, 531]		38 [8]	29	8 [93]		21 [19]	8, 670	4	ては、学類単 位での特定不
設 備		環境情報学類	(23	3, 835 [1, 531]) (38 [8])	(2	98 (93))	(21 [19]) 4	能なため、農 食環境学群全
1/用		計		3, 835 [1, 531]		38 [8]		8 (93)		21 [19]	8, 670	4	体の数
			(23	3,835〔1,531〕 スポーツが		38 [8])	(2	98〔93〕 講堂)	(21 [19]			
	ス	ポーツ施設等				4 m²		再上	1, 133	m²	厚生補導施記	x 12, 327	大学全体
					1, 02				_,	<u> </u>		., 111	

		区分	開設前年		第1年次	第	2年次	第3年次	第4年次	第5	年次	第6年次	
経費	経費	教員1人当り研究費等			335千	円	335千円	335千円	335千	·円 —	- 千円	一 千円	図書、設備購 入は、学類単
の見	の見	共同研究費等			10,000千	円 10,	000千円	10,000千円	10,000千	·円 —	- 千円	一 千円	位での特定不
積り 及び	積り	図書購入費	5, 20	0千円	5,000千	円 5,	000千円	5,000千円	5,000千	·円 —	- 千円	一 千円	能により、農食環境学類全
維持		設備購入費	16, 50	0千円	15,000千	円 15,	000千円	15,000千円	15,000千	·円 —	- 千円	一 千円	体の額。図書 費には電子
方法の概		学生1人当	Ŋ		第1年次	第	2年次	第3年次	第4年次	第5	年次	第6年次	ジャーナル・ データベース
要		納付金			1,540千	円 1,	340千円	1,340千円	1,340千	·円 —	- 千円	一 千円	の整備費を含む。
	学生	E納付金以外の維持	寺方法の	既要	私立大学	等経常費	補助金、	資産運用収入、	雑収入 等	Ė		ı	5.
	大	学等の名を	亦 酪農	学園大学	学								
	学音	邪等の名ま	修業	入学	編入学	収容		学位又	収容定員	開設	所	在地	
	, ,	1 × H	年限 年限	定員	定 員 年次	定員	(は称号	充足率 	年度	/21	T	
			1	八	人	八			IΠ				
	農食現	環境学群							0.80				
		dt- 224					NA A CHILL						
	1	環農学類	4	240		960	学士(農	学)	0.85	平成23年4月			
	食	と健康学類	4	160		640	学士(食:	品学)	0.60	平成23年4月			
							7 — (20)	,		. , , , , , ,			
	環	境共生学類	4	120		480	学士(環	竟学)	0. 96	平成23年4月			
既設													
大学	獣医学	学群							1. 19				
学等									《1. 17》				
ずの	獣	医学類	6	120	_	720	学士(獣	医学)		平成23年4月		毎道江別市	
状	24.6			60		0.40	24 L (21)	云川 烛子 洪兴\	《1. 19》	T-400 F 4 F	文京台	3緑町582番地	
況	歌	医保健看護学類	4	60	_	240	子工(歌)	医保健看護学)	(1. 13)	平成23年4月			
									((1. 10))				
		学研究科							1. 20				
		農学専攻修士課程		6			修士(農			昭和56年4月			
		ドシステム専攻修士課程 品栄養科学専攻修士課		6			修士(農)	字 <i>)</i> 品栄養科学)		平成7年4月 平成15年4月			
		上産利用科学専攻博士課		2			博士(農			平成3年4月			
	食品	品栄養科学専攻博士課		2				品栄養科学)		平成15年4月			
	v) t arm the col											
		学研究科 E保健看護学専攻修士課	程 2	3		6	 	医保健看護学)	2. 11	平成27年4月			
		医学専攻博士課程		3			博士(獣			昭和56年4月			
								· ·					
				目的	: 附属農 : 農食環 : 江別市	境学群		- Hh39/4h					
					: 仁別川 引: 1960年		₩™1 003 甾	· 本屋の01円					
							13 m² 建	物 14,218.461	n²				
	附属	施設の概要		h 11	w	Lill . 	, , , , .		. `				
			2		: 附属重 : 獣医与			(附属家畜病院	1)				
								叮569番地29他					
					月: 1964年								
				規模等	: 土地	24, 623. 6	51㎡ 建华	勿 6,422.76㎡					

(典 4	守部中	が 単語は	教 育 情報学類)	課程	等	- O) 村	既	—— 要				•	开紅_	· ·			· A 4 純望)
(辰)	2块块寸	一什 辰垛场	TIF 和]	単位数	<u></u>	授	業形!	態		基草	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	等の関	記置		
	科目	区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外の教員	備考
		為農学園 [入教育	基礎演習 キリスト教学 I キリスト教学 II	1前 1前 1後	0 0	1 2 2			0	0		7	4	3			1 1	
			小計 (3科目)	_	_	5	0	0		_		7	4	3	0	0	1	
		人文社会科学教育	日本史 哲学 心理学 文学 社会学 地理学 法学 日本国憲法 経済学 世界史 キリスト教と諸宗教 キリスト教と生命倫理	1前 1後 1前 1後 1前 1前 1前 2前 3後		2	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2		000000000000					1			1 1 1 1 1 1 1 1 1	
			小計(12科目)	_	_	2	22	0				0	0	1	0	0	10	
共通教育	基盤教育	自然科学教育	数学 I 生物学 生物学実験 化学 字 野 地学 学 野 地学 I 統計理学実験 地学実験 地学実験 地学計学 I 小計(12科目)	1前後後前前前後後前前後後 2前前後後前前後後 20 20 20 20 20 20 20 20 20 20 20 20 20		2	2 2 1 2 1 2 2 2 1 1 2 1 2	0	00 0 0000 0		0 0 00	1	1	1 1	0	0	1 1 5 1 2 1 1 1 1 2	オムニバス オムニバス オムニバス
		保 教健 育体	体育実技 I 体育実技 I 体育実技 II 運動の科学	1前 1後 1後		1	1 2		0		0	1	1			0	3 4 2	オムニバス
		育	小計(3科目)	_	_	1	3	0		_		0	0	0	0	0	6	
		情報教育	情報処理基礎演習 情報科学の基礎 情報処理演習 小計 (3科目)	1前 1後 2前 一	_	1 2 3	1 1	0	0	0		0	0	0	0	0	2 1 1 3	
		外国語教育	英語 I 日本語 I 英語 II 日本語 II 中国語 I ハングル I 英語 IV 中国語 II ハングル II	1前 1前 1後 2前 2前 2前 2後 2後 2後		2 2 2	2 2 2 2 2 2		0 0 0 0 0 0 0 0 0				1 1				1 1 1 1 1 1 1	

(曲4	> T皿 + 本 쓴		教育	課程	. 等	= 0.) 村	既	要					开孤_			*****	A 4 桃空)
(長玉	以 块块于	*群	情報学類)				単位数	₩	授	受業形	能	l	基直	全教員	等の配	記置		
	科目	区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科	必	選	自	講	演	実験・	教	准教	講	助	助	基幹教員以外	備考
					科目	修	択	由	義	習	実習	授	授	師	教	手	外の教員	
	基盤	外 国	外国語演習 I	3前			2			0							1	
	教] 語 教	外国語演習Ⅱ	3後			2			0							1	
	育	育	小計 (12科目)		_	8	16	0		_	_	0	1	0	0	0	7	
		キ	キャリア実習	1前			1				0						2	
		ヤ リ	キャリアベーシック	1後		1				0							1	
		ア	キャリアデザイン I	3前		1				0							1	
共		教 育	キャリアデザインⅡ	3後			1			\circ							1	
通教		Ħ	小計 (4科目)		_	2	2	0	_	_		0	0	0	0	0	4	
教育		全	全学共通科目A	1前			2		0			2	1				3	オムニバス
		全学共通教育	全学共通科目B	1後			2		0								5	オムニバス
		通	学外農場実習	2前			4				\circ						1	標準外
		教	博物館実習	3前			3				\circ						2	標準外
			小計(4科目)	_	_	0	11	0		_		2	1	0	0	0	11	
		導学 入群	健土健民・農食環境学入門実習	1前	\circ	1					0			1			4	オムニバス
		教専	建学の精神と農食環境学概論	1前	\circ	2			0			1						
		育門	小計(2科目)	_	_	3	0	0		_		1	0	1	0	0	4	
			畜産学総論	1後			2		\circ								5	オムニバス
			土壤学	2前			2		\circ								1	
			作物生産学 I	2前			2		\circ								1	
			マーケティング論	2前			2		\circ								1	
			植物生態学	2前			2		\circ								2	オムニバス
			気象学の基礎	2前			2		\circ								1	
			草地・飼料作物学	2後			2		\circ								2	オムニバス
			園芸生産学 I	2後			2		\circ								1	
			食品産業論	2後			2		\circ								1	
			乳肉科学	2後			2		\circ								2	オムニバス
専		学 群 専	野生動物学の基礎	2後			2		0								7	オムニバス
門		専	動物生態学	2後			2		\circ								1	
教育		門 教 育	作物生産学Ⅱ	3前			2		0								1	
月		育	食品流通論	3前			2		0								1	
			クマ学	3前			2		0								1	
			野生動物と社会	3前			2		0								1	
			植生保全学	3前			2		0								1	
			動物の行動と管理	3後			2		0								1	
			肉用家畜学	3後			2		0								2	オムニバス
			乳用家畜学	3後			2		0								1	
			森林環境学	3後			2		0								1	
			生物地球化学	4前			2		0								2	オムニバス
			気象・気候学	4前			2		0								1	
			小計 (23科目)	_	_	0	46	0		_		0	0	0	0	0	24	

(農省	金子 音	全群 点	単퍰培	教 育 情報学類)	課程	. 等	■ 0.) 相	既	要									
(ARE D	C+R-25-7	-4T /	文學元	H TX /]	単位数	<u></u>	授	受業形	態		基草	2 教員	等の関	配置		
	科目	区分		授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外の教員(助手を除く)	備考
		早	月 寅	専門ゼミナール I 専門ゼミナール II 卒業研究 I 卒業研究 II 研究発表	3前 3後 4前 4後 4後	0 0 0	2 2 2 2	2			0 0 0 0		7 7 7 7 7	4 4 4 4	3 3 3 3				
				小計(5科目) 農環境情報学概論I	 1前	0	8	2	0	0	$\overline{}$		7	4	3	0	0	0	
				GISリモートセンシング基礎 農環境情報学概論II 経済原論 資源リサイクルと環境保全 GIS基礎演習 経済学基礎理論	1前 1後 1後 1後 1後 2前	0 0 0 0 0	2 2 2 2 1 2			0 0 0 0	0		1 1 1	1	1 1			1	オムニバス オムニバス
			-	経営学入門 再生可能エネルギー入門 農畜産物市場論 農業協同組合論 日本経済論 GIS応用演習 農業資源経済学	2前 2前 2前 2前 2前 2前 2前 2前 2後	0 0 0	2 2 2 2	2		0 0 0 0	0		1 1 1 1 1 1	1	1 1				オムニバス
専門教育	農環境情報専門教	早月禾目	月 斗	地域経済論 民法・商法 行財政学概論 社会調査法 簿記・会計学基礎 海外自然環境実習	2 後 後 後 後 後 後 後 後 後 後 後 後 後 後 後 後 後	0	2	2 2 2		0 0 0 0		0	1 1 1 1		2			1	標準外
	教育			農業機械・施設学 統計データ分析演習 国際法 農業経営学 ボランティア活動・NPO・NGO論 バイオマス技術入門	2後 3前 3前 3前 3前 3前	0	1	2 2 2 2 2		0 0 0 0	0		1	1	1			1	1x 4-7
				アグリビジネス論 国際経済論 酪農・畜産経営論 小計 (29科目)	3後 3後 3後 36	0	30	2 2 24	0	0	_		1 1 1 6	2	2	0	0	7	
				農村社会学	2前	0	30	2		0				1				 	
		応用科目	アグリデザイン	農業政策学 I 農業市場論 農業政策学 II 協同組合学 地域連携論 簿記・会計演習	2後 3前 3前 3前 3前 3前	0 0 0 0 0		2 2 2 2 2 2 1		0 0 0 0	0		1 1 1 1	1					
			ン領域	アグリデザイン実習 地域計画論 営農システム論 アグリデザイン演習	3前 3後 3後 3後	0 0 0		1 2 2 1		0	0	0	6 2 6	1 1 2					標準外 オムニバス

(典 4	- 二二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二	÷ # .	±ı≅ l ÷	教 育	課程	等	€ 0.) 相	既 :	要									
(辰氏	及琛児一	千石干 兒	長	情報学類)]	単位数	<u></u>	授	業形"	熊		基草	2 教員	等の	配置		
	科目	区分		授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外の教員(助手を除く)	備考
専門教育	農環境情報専門教育	応用科目	地域データサイエンス領域	プログラミング入門 コンサルティング実践演習 I 機械学習入門 リモートセンシング基礎演習 コンサルティング実践演習 II 画像解析AI演習 データサイエンス演習 I 環境モニタリングとリモートセンシング データサイエンス演習 II	2前前後後後前前後後 33 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3	0 0 0 0 0 0 0 0	0	2 2 2 2 2 2 2 2 2 37	0	0	0 0 0 0 0 0		1 1	2 1 2 1 1 5	1 3 1 3 1 1 3	0	0	1 1 1	オムニバス
	耳言和	教 散果呈教育		教職入門 教育同理学 特別支援法・ICT活論 教育市心支援法・BE 教育主 UE 報題 教育主 UE 報題 教育主 UE 和 教育相談 地誌 時別業者 I (長科歴 的教育 I (民理歴 のの と Y で で で で で で で で で で で で で で で で で で	1 1 1 2 2 2 2 2 2 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3		0	0	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	0000000000000000000			1 1 1 1 1 1	0	0	0	0	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 2 2 2 1 1 2 1 2	オムニバス オムニバス
	22.21			合計(156科目)	_	_	64		52	V1		,	7 4 3				0	75	
	子位又	は称号	Ť	学士(農学)	V+:			字位	又は*	学科の	ノ分野 	*			極光		学関係	Ŕ	
単位を む2単 位、 し 修得の	を含む6 位、「 「学 関 関 う う う え 、	単位、 情報教 専門導 取専門朝 計791	「自然 (育」か 入教育」 教育」 単位以	卒業・修了要件及び履修方 農学園導入教育」必修5単位、「基盤教育 料学教育」から必修2単位を含む6単位、 いら必修3単位、「外国語教育」から必修8 」必修3単位、計35単位以上、「専門教育 の「専門科目」から必修30単位、「応用利 上、合計で124単位以上修得すること。	」の「人文 「保健体育 単位、「キ 」では、「 斗目」のい	*教育」 *ヤリン *専門! ずれか	から ア教育 寅習」 の領 ⁵	必修! いか! 必修! 或の科	1単位 ら必修 8単位 1目全	を含 §2単 、てを			学期[授業	期間	***		学期 週
	ない。 2			:1年次において、年間48単位、1学期0 おいて、年間46単位、1学期につき24単位							1時	限の	授業の	の標準	善 時間	1		90	分

/ HH . A		Are all the NA Jers	教	育 謂	早程	等の	概	要						円സ	1 . 1 /-		2倍A4袱空)
(農食	環境字群 往	循環農学類) 	<u> </u>			単位数	<u> </u>	授	業形	能	1	基重	2	等の	記置		
	科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外の教員(助手を除く)	備考
	酪農学園導入教育	基礎演習 建学原論 キリスト教学 I キリスト教学 II 健土健民入門実習 農食環境学概論	1前 1後 1前 1後 1前 1前	000000	1 1 2 2 1 2			0 0 0	0	0	11 1 1 9 11	3 5 2	1 2 1			0 4 2 2 4 1	オムニバス オムニバス
	人文社会科学教育	キリスト教と諸宗教 キリスト教と生命倫理 哲学 心理学 文学 社会学 日本史 世界史 地理学 法学 日本東 地理学 法学	2前 2前後 1前···································			2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2		000000000000			1 1 1		1			0 1 1 0 0 1 1 1 1 1 1	
基盤教育科目	自然科学教育	数学 I 数学 I 統計学 I 統計学 I 生物学 生物学 生物学 実験 化学実験 物理学 物理学 地学実験 地学実験	1前後前後前後前後 1前·後後前 1前· 1前· 1前· 1前· 1前· 1前· 1前· 1前· 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10		2	2 2 2 1 2 1 2 1 2		00000 0 0 0		0 0		1	1 1			1 1 0 0 2 6 1 3 1 2	オムニバス オムニバス オムニバス
	育保健 育 教育 教育 教育	運動の科学 体育実技 I 体育実技 I 情報科学の基礎 情報処理基礎演習	1後 1前 1後 1後 1後		1	2 1 2		0	0	0	1					1 7 4 2 7	
	外国語教育	再報処理基礎價質 英語 I 英語Ⅲ 英語Ⅲ 英語Ⅳ 外国語演習 I 外国語 I 中国語Ⅱ 中国語Ⅱ ハングルⅡ 日本語 I 日本語Ⅱ	1 1 1 1 1 1 1 1 2 2 2 1 2 2 6 1 3 2 6 1 8 1 8 1 8 1 8 1 8 1 8 1 8 1 8 1 8 1		2 2 2 2	2 2 2 2 2 2 2 2 2		0000 000000	00		1					10 10 10 10 1 1 1 1 1 1 1 1	
	キャリア教育	キャリアベーシック キャリアデザイン I キャリアデザイン II キャリア実習 小計 (51 科目)	2後 3前 3後 1前		1 1 23	1 1 65	0		0 0 0	0	1 20	6	2	0	0	1 1 1 2 59	標準外

(曲 🏊	· 本 · 本 ·	5# <i>/</i>	氏语 曲 分松()	—————————————————————————————————————	育 課	! 程	等の	概	要						14/154	13/17/		P格A4縦型)
(長後	[子	盾環農学類)				単位数	<u> </u>	授	業形	熊		基草	2 教員	等の関	配置		
	科目区分		授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外の教員 (助手を除く)	備考
	基礎科学領	群	無機化学 有機化学 物理化学 分析化学 生化学 微生物学 土壤学 植物遺伝学 動物遺伝学 動物遺伝学	2前 2前 2前 2後 2前 2前 2前 2前 2前 2前			2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2		0000000000			1 1 1 1 1	1 1				1 2 1 0 1 1 0 0 0 0	オムニバス オムニバス
		B 群	民法・商法 行財政学概論 経済原論 ミクロ経済学 マクロ経済学 経営学総論 日本経済論 統計データ分析演習	2後 2後 2後 2前 2前 2前 2前 3前			2 2 2 2 2 2 2 2		0000000	0		1 1 1 1 1 1					1 1 0 1 0 0 0	オムニバス
専門基礎教		A 群	家畜解剖学 家畜生理学 畜産学総論 農業機械学 草地・飼料作物学 作物栽培学 園芸学 農業経営学概論 農業政策学	2前 2前 2前 2後 2後 2後 2後 2後 2後 26 26 26 26 26 26 26 26 26 26 26 26 26			2 2 2 2 2 2 2 2 2 2		000000000			7 2 1 1 1	2 1 1	1			1 1 1 1 0 0 0 0	オムニバス オムニバス オムニバス オムニバス
教育科目	循環農学類専門#		家畜行動学 農業施設学 雑草学 食料農業の法と制度 家畜生理・解剖学実験 農業微生物学実験 農産物利用学実習 農業施設・機械学実習 作物生態生理学実験 学外農場実習	2後 3後 3後 2後 2前 2前 2前 2前			2 2 2 2 1 1 1 1 1 4		0000		00000	2 1 2 2 2 2	1 1 1 1 1	1			0 0 0 0 3 1 0 1	オムニバス オムニバス 標準外・オムニバス
	基礎領域		食品化学 乳科学 食肉科学 応用生化学 栄養衛生学 食品衛生学 全物分類学 情報处理演習 簿記 協同組合論 農業協同組合論 農者社会学 社会調查法 国際経 国際法	2 2 2 2 2 2 3 3 3 3 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2			2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2		00000000 0000000	0		1 1 1	1				1 1 1 1 1 1 1 2 4 0 0 0 0 1	オムニバス

~m (4,))(n)(Act will the NA street	教	育 課	早程	等の	概!	要						用紙_	H/J·	<u> </u>	2格A4純型)
[循環膜子類) 		Ι.		単位数	<u> </u>	授	業形	能		基重	全教員	等の	記置		
科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	必修	選 択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外の教員	備考
	マーケティング論 国際関係論 国際理解	2後 2後 2前			2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2		000000000 0000000 00000	000		1	1	1			1 1 1 0 6 2 2 2 1 11 1 2 1 3 1 1 1 1 8 5 4 3 1 1 1	オオオオ オ オ オ オ オ オ オ オ オ オ オ オ オ オ オ オ オ
領門学 域基共 礎通	全学共通科目B 博物館実習	1後 3前			2 3		0		0	4	-				10 2	オムニバス標準外
専門共通教・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	小計(83 科目) 専門ゼミナール I 専門ゼミナール I 卒業研究 I 卒業研究 I 研究表 家畜育種学 家畜畜育種学 家畜畜管理学 家畜畜管理学 家畜畜管理学 家畜畜管地学 家畜畜管地 家畜畜管理学 家畜畜	- 3 3 3 4 4 4 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3	0000 0000000000	0 2 2 2 2 2	2 2 2 1 2 1 2 1 2 1 2 2	0	00 00 0 000			21 28 28 28 28 28 28 1 3 1 2 5 1 1 1	7 9 9 9 9 9 1 2 1	3 3 3 3 3 3 1 1 1	0	0	68 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 5 3 2 0 0	オムニバス オムニバスス オムニババス オムニババス オムニババス オムニババス
	科区 共通領域 - 育 - 専攻教目分 - 共通領域 - 専門基礎 - 専門共通教 - 略農学コー - 全学共通 - 専門共通教 - 略農学コー	区分 (表	環境学群 循環農学類) 投業科目の名称	東東学群 循環農学類	環境学群 循環農学類)	単位数 世	(単位数	Part	環境学群 循環機学類)	様型学師 「中国	## 1	解析	程度学報 1	報理学師 6歳提学師 報理 本版 大阪 大阪 大阪 大阪 大阪 大阪 大阪 大	報告の	報源学師 雑馬農学類

(農食	·晉倍学群:	循環農学類)	教	育 課	! 程	等の	概	要						円			
	· 探先于研	相外成于规》		Ι		単位数	<u> </u>	授	業形	態		基章	2	等の関	配置		
	科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外の教員 (助手を除く)	備考
	事攻教育 音産学コース	家畜等種学 家畜育種学 家畜育種学 家畜育種学 家畜育世業 家畜管理人 家畜管性生学 家畜畜衛生生 等 家畜畜衛生生 等 家畜畜衛生生 等 等 者 者 者 者 者 者 生 学 等 者 者 者 者 者 者 者 者 者 者 者 者 者 者 者 者 者 と き き き き	3前 3前 3前 3前 3前前 3前 3前 36 36 38 38	00000000000000		2 2 1 2 2 1 2 1 2 2 2 2 1 2 2 1 2 1 2 1		00 00 0 0000		0 0	1 3 1 2 5 1 1 1 2 4 6	1 2 1 2	1 1 2 1 2			0 0 0 0 0 0 5 3 2 0 1 0	オムニバスススススススススススススススススススススススススススススススススススス
専門教育科	専攻教育 農学コース	水稲栽培学 水稲栽培学学 作物栽培学学 作物栽培学学 で物報・ でで、 でで、 でで、 でで、 でで、 でで、 でで、 でで	3前 3前 3前 3前前前前前前前後後後 3前前前前前前前後後後後前前前前後 3 3 3 3	000000000000000000000000000000000000000		2 2 1 2 1 2 1 2 1 2 1 2 1 2 1 2		00 00 0 00			1 1 1 1 2 1 1 1 2 1 2	1 1 1 1 1 1 1				0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	オムニバス オムニバス オムニバス オムニバス
目	専攻教育 専攻教育農業経済学コース 教職コース	農業経営学 農業和・農業学 協同が見いでは 連携会学のでは 地域記・経済のと 地域記・経済ののでは では 連進のでは は は は は は は は き は は き は き き き る き る き	3前 3前 3前 3前 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3	0000000000000000000		2 2 2 2 2 1 1 1 1 2 2 2 1 1 1 1 1 1 1		000000 000	000	0	1 1 1 1 1 3 7 1 7 1 1 2 2 3 3 3	1 1 1 1 1 1	2 1 1			0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	オムニバス 標準外 オムニバス 標準外 オムニバス
	循環農学類教育	家畜繁殖技術論 受精卵移植論 畜産物利用学実習 実験動物学 果樹園芸学 農産加工学	4前 4前 4前 4前 4前 4前			2 2 1 2 2 2		0 0 0 0		0	2 2 2	1 1	1			1 0 0 0 1	オムニバス オムニバス オムニバス

(農食	環境学群(盾環農学類)		教	育 課	程	等の	概!	要									
()IQ IQ	. PR 90 1 4T 1	1 /A/					単位数	<u> </u>	授	業形	能		基章	2 教員	等の	記置		
	科目区分	授業科目の	D名称	配当年次	主要授業科目	必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外の教員	備考
専門教育科目	実践酪農学・実践農	実践酪農学 実践酪農学演習 実践酪農学実習 I 実践酪農学実習 I 実践農学 実践農学実習 I 実践農学実習 II 実践農学実習 II 実践農学実習 II		1前 1後 1後 3後 1後 2前 2前 3 3		8	2 1 8 8 2 2 2 2 2	0	0	0	00 000	7 4 4 4 4 4 28	1 1 1 1 1 1 1 1 9	3	0	0	0 0 0 0 0 0	オムニバス 標準外 オムニ準外 オニニット 標準外 標準外 標準外
	A 群	表別では、	•	3前 3 3 6 3 6 3 6 3 6 3 6 3 6 6 6 6 6 6 6		0	2 2 2 2 2 2 2 2 2	0	00000000			1 1 1	1 1 1	3	0	0	14 0 0 0 0 0 0 0 1 1	
教職課程教育	B群	教職 教育心 教育	の指導法 	1 1 3 1 2 2 3 3 2 2 2 4 3 3 4 4 3 4 4 2 2 2 4 3 3 4 4 3 4 4 2 2 4 3 3 4 4 3 4 4 2 2 4 3 4 4 3 4 4 2 4 3 4 4 3 4 4 2 4 4 3 4 4 4 2 4 4 4 2 4 4 4 4			2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2		000000000000000000000000000000000000000	0	00	1 3 1 1 2 1 3 1 1 1 1 3 3	1 1 1 1 1 1				0 0 1 1 1 0 0 0 0 0 0 1 1 0 0 0 0 0 0 0	オムニバス オムニバス オムニバス
		小計 (28 科目)		_		0	60	0		_	•	3	1	0	0	0	5	
		合計 (238 科目)			<u> </u>	31	415	0		_		28	9	3	0	0	120	
	学位又	スは称号	学士	(農学)			学	位又	は学科	中の分	·野				農学	と関係		
		卒業・値	多了要件及び履信	多方法										授業	期間等	争		
44単位 位をで た 教育	立以上、専門合わせて30単 さし、教職 = は専門共通教	Eめる修得すべき単位 月教育は専門共通教育 単位以上を修得し、台 ロース履修者は、基盤 対育8単位以上、教職 2単位、合計36単位以	育8単位以上と、 計で124単位以 と教育から40単位 コース専攻教育	いずれか: 上を修得 [:] Z、専門基 6単位、そ	1つの する は 礎 教 し の 他	コー こと。 育かい	ス専攻 ら48単 ずれか	(教育 (位、 い1つの	22単専門		年の学						学期 週	
(履信 履修)	することはて	录の上限:1年次にお ごきない。2年次以降 こはできない。)								1 時限	艮の授業	美の標2	進時間			90	分	

(岸	豊食環	境学群 農	環境情報学類)		授業科目の概要	
1,2		国区分	授業科目の名称	業主 科要 目授	講義等の内容	備考
共通教育		8農学園 享入教育	基礎演習	0	基礎演習では、思考力・判断力・表現力を深め、実践的な調査や取組みを行うために必要となる基本的な技法を学修者が主体的に学ぶ。具体的には、文献資料や統計データを幅広く調査し、その内容を理解し、批判的に検討してレポートや論文をまとめる方法、または口頭で発表し、多角的な議論を通じて内容の理解を深める方法を修得する。 さらに、基礎ゼミ農園の計画立案、作業、成果報告のプロセスを通して、互いに協力しながら共通の課題に取り組むための実践的な方法も学ぶ。	
共通教育	酪農学園 導入教育		キリスト教学 I	0	「聖書を通してキリスト教を知る」ことを主題とする。聖書はキリスト教徒が信仰を前提として読む「正典」(ラテン語canon=regula fidei=「信仰の規準」)として位置づけられているが、それと同時に人類が生み出した最重要の「古典」(ラテン語classicus=「最上級の文書」)としても理解されている。聖書の内容と構成、聖書を生み出したユダヤ教とキリスト教の歴史・社会・文化を知ることを通して、聖書とキリスト教に関する基礎的知識を修得する。	
共通教育		A農学園 拿入教育	キリスト教学Ⅱ	0	「新約聖書と現代社会:新約聖書を通して現代社会の諸問題を読解する」ことを主題としている。授業では、まず新約聖書テクストを精読していくが、その際、現在の新約聖書学の研究方法でもある文献学、歴史学、社会史、文学批評、イデオロギー批評、クィア理論といった多様な方法論を用いて、新約聖書を読み解いていく。また、新約聖書においてイエスやその弟子たちが遭遇した諸問題を繙き、彼女/彼らがそれらの問題とどのように対面し、苦悩し、立ち向かっていったのかに触れつつ、そこから現代社会に立ち戻って、現代社会が抱えるさまざまな問題を再考することを試みる。	
共通教育	基盤教育	人文社会科 学教育	日本史		この講義は、先史から現代までの日本列島における歴史事象について各自が認識する事を目標にしている。ただ、15回の授業ではとても不可能であり、したがって、各時代において象徴的な事象に焦点を当て、その時代を概観することになる。そのことにより、日本の歴史について認識するとともに、過去の事象について考察する姿勢を身に付け、どのような未来を構築するのかについて意識することを「ねらい」とする。したがって、単に「記憶」を求めるのではなく、「理解」や「考察」を促す講義となる。	
共通教育	基盤教育	人文社会科 学教育	哲学		哲学全体を概観した後、論理分析哲学(論理学)を学ぶ。具体的には、古代から中世・近世にかけては、演繹的なプラトンと帰納的なアリストテレス、キリスト教伝来によるプラトンやアリストテレスの「継承」から「分離」について学び、 近世から近現代については、デカルトによるプラトン回帰:キリスト教との「分離」を受けて、カントによるデカルトの「手直し」〜アリストテレス的な英国哲学の影響を受けて〜、および時間的可変性の考えを導入したへーゲル(弁証法):プラトンやアリストテレス以来の「枠組」を乗り越えた「全く新たな発想」のスタートを学ぶ。後半では古典命題論理と様相論理について学び、哲学書を読む際の論理的思考の基礎を修得する。	
共通教育	基盤教育	人文社会科 学教育	心理学		心理学では、人の心という直接は見ることのできないものを研究対象としているため、研究に難しさがあり、独自の方法論が開発されてきた。心理的な現象の心理測定法はその研究成果のひとつであり、統計学や数学にもとづいた解析を行う。この授業ではこの心理測定法について、理論的な解説と自分達自身による測定を通して学ぶ。学習を進めるにあたっては、確率論、微分・積分学、線形代数学(行列)といった数学の知識が必要となる。	
共通教育	基盤教育	人文社会科 学教育	文学		文学を読み解くことの楽しさを知るために、主にイギリス文学を代表する詩人、劇作家、小説家の作品に直接ふれ、実際に文学を「経験」してみることにする。文学について学ぶことはもちろんだが、様々な表現に触れることで、色々なものを論理的に読み解くコツについても同時に学んでいきたい。本講義では、主に「詩」と「劇」を読む。「知識」というより「方法」を身につけられる様な講義にする。読むことの楽しさが少しでも実感できればと考えている。	
	基盤教育	人文社会科 学教育	社会学		本講義では、家族、集落、都市といった身近な視点から、ジェンダーや都市農村関係を軸に 社会問題を多角的に理解します。経済的な取引だけでは捉えきれない、各レベルにおける社 会関係の重要性を深く掘り下げ、それぞれのあり方や私たちの関わり方を考察します。その ために、多様な社会関係の概念とその意義を学びます。地域社会問題の発生と対策について 考察し、統計資料の活用方法を習得することで、現代地域社会の実情を把握する技能を養い ます。経済的価値に偏らない社会関係を尊重し、主体的に探求する態度を育成することで、 専門科目への学習意欲を高めることを目指します。	
共通教育	基盤教育	人文社会科 学教育	地理学		地理学は古代ギリシャ・ローマ時代まで遡る歴史がある重要な学問の1つである。古代の地理学は「自然と人間との関係」や「世界状況の記述」を目的としていたが、近代では「地域」を対象とする地誌と「空間的な分布」の法則を対象とする系統地理学に分かれる。系統地理学はさらに自然地理学と人文地理学に分類される。近年、地理情報システム(GIS)が普及し、地図上にデジタル情報を掲載することが多くの分野で必須となっており、特に環境や国際協力、地理情報などの理解が求められるため、地理学は高校の必修科目となった。酪農学園大学では、農業や環境といった教育・研究分野が自然地理学や人文地理学と密接に関わっている。これらの分野と地理学の関連について解説する。	
共通教育	基盤教育	人文社会科 学教育	法学		法の基本的な考え方と使い方を学ぶための講義である。法はあらゆる社会現象を対象とし、 社会秩序を維持し、正義を実現するための重要な手段である。人々の価値観が急速に変化する中で、多様な価値が並存する、自由で公正な社会をどう実現すべきか。また、革新的な技術が社会実装される中で、リスクを衡平に配分するためには、どのような立法が必要か、あるいは現行法をどのように解釈・適用すべきかという課題を、具体的課題に則して検討する。	
共通教育	基盤教育	人文社会科 学教育	日本国憲法		国の最高法規である憲法のしくみと基本的人権について学び、より公正で、誰もが幸福を追求できる社会を実現するために、主体的に考え、行動する主権者としての基礎力とセンスを磨く機会とすることを目的とする。政治に無関心であり続けることはなぜ問題か、日本でジェンダー平等を実現するためにはどのような制度や変革が必要か、多文化共生を促進し、社会内の格差を是正するため国はどのような社会政策をとるべきか、これらの現代的な諸課題について講義とクラス内での議論を通して多角的に検討し、人権と多様な価値観を前提とした社会の作り方について考えていく。	
共通教育	基盤教育	人文社会科 学教育	経済学		社会では日々様々なことが起きている。経済学は社会で観察される様々な現象を理解するための科学である。社会は人間から構成され、社会現象は一人ひとりの人間の行動の結果として現れる。本講義では、主に人間行動や社会現象に関する次の問題について考える。「経済学では人間はどのように意思決定をしていると考えるか?」「人はなぜ交換をするか?」、「価格はどのように決まり、なぜ変化するのか?」、「価格政策は市場にどのような影響を与えるか?」、「GDPとは何か?」「経済成長はいかにして促進されるか?」これらを理解するために、経済学におけるミクロ経済学とマクロ経済学のエッセンスを学ぶ。	

					授業科目の概要	
(境学群 農 目区分	環境情報学類) 	業主	講義等の内容	備考
共通教育	基盤	人文社会科 学教育	世界史		本講義では、18世紀以降の近現代史を概説し、歴史事象の意味や特色を多面的に考察し、説明・議論する力を養う。歴史を学ぶ際には、出来事の暗記だけでなく、その背景や影響を深く理解することが重要である。例えば、フランス革命や産業革命が社会、経済、文化にどう変化をもたらしたかを考察する。また、歴史的な出来事が現代社会に与える影響を理解することも重要であり、この学び方を通じて、歴史の複雑さや多様性を認識し、現代の問題を歴史的視点から分析する力を身につけ、世界史の学びが現代社会の理解や課題解決に役立つことを実感する。	
共通教育	基盤	人文社会科 学教育	キリスト教と諸宗教		本講義は「宗教を通して世界を見る:宗教学・宗教社会学入門」を主題とする。宗教音痴と言われ、無宗教を当然視する傾向が強い日本とは異なり、世界の大部分の国や地域では、自分の宗教を持つことは当然と考えられており、宗教が生活の中に溶け込んでいるので、世界の諸宗教を知ることは世界の多様な人々を理解する上で不可欠なことである。個別宗教の歴史、文化、教理等を論じ、さらにには宗教間対話を試みることによって、宗教リテラシーを修得する。	
共通教育	基盤	人文社会科 学教育	キリスト教と生命倫理		ユダヤ・キリスト教の影響を受けた生命倫理の考え方を詳細に検討する。さらに、日本を含むユダヤ・キリスト教文化圏以外の生命倫理の考え方と比較し、その異動を整理することで、生命倫理の諸問題に対する理解を深める。具体的には、生命の始まりと終わりに関する倫理的視点、医療技術の進歩に伴う倫理的課題、そして個人の権利と社会の利益のバランスなど、多岐にわたるテーマを取り扱う。これにより、異なる文化圏における生命倫理の多様性と共通性を理解し、現代社会における生命倫理の課題に対する幅広い視野を養うことを目的とする。	
共通教育	基盤	自然科学教育	数学 I		本講義では、微分と積分の基礎理論を学ぶ。微分では、関数の瞬間的な変化率や接線の傾きを求めることにより、基本的な導関数の計算や応用を学ぶ。一方、積分では、関数の累積的な総和や面積を求めることにより、基本的な積分の計算や応用を学びます。具体的には、関数の定義、極限、連続性、基本的な微分法と積分法、そして微分積分の基本定理などが含まれ、これにより、物理学や工学、経済学など多岐にわたる分野で必要となる数理的な基盤を修得する。	
共通教育	基盤	自然科学教育	生物学		生物とその世界を理解するために、広い視野で時間の要素も取り入れた生物界全体の体系的な捉え方をはじめ、次に分子・細胞・個体レベルから環境も含めた生態系レベルまでに及ぶ、生物現象の階層性を深く理解するために、進化の考え方を根底に置いて、個々の生物や生命現象の仕組みについて学ぶ。具体的には、細胞の構造と役割、生物の成長と発達、動物の行動や生態について解説する。これらにより、生物・生命現象がどのようなしくみで成り立っているのかを理解し、生物学の基礎的な知識を身につける。	
共通教育	基盤	自然科学教育	生物学実験		(概要) 生物学を学ぶために必要な基礎的な考え方と技術を修得するため、大きく以下の4項目について実験を通して学ぶ。「細胞の観察」、「動物の体の構造」、「植物の構造と成長」、「染色体の観察」。(オムニバス方式/全15回)(47 原村隆司/3回)「細胞の観察」:生物体が細胞から成り立っている事を認識し、細胞の形態的特徴や生きた細胞の変化をとらえる。(54 植田弘美/3回)「動物の体の構造」:ネズミの体の構造をビデオで確認し、組織切片標本の観察により、様々な器官の構造をとらえて機能との関連を考える。(53 岡本英竜/3回)「植物の構造」:花の各部の構造を理解し、生きている細胞の活動をとらえる。(63 松本圭司/1回)「植物の成長」:植物に含まれる光合成に関わる物質の一部を知る。さらに植物の成長を細胞分裂の観察から確認すると共に染色体の行動を学ぶ。(66 小林由美/5回)「染色体の観察」:唾腺染色体から染色体と遺伝子の関係を理解し、配偶子形成における減数分裂を理解する。さらに組織からDNAを抽出することでその性質を理解する。	オムニバス方式
共通教育	基盤	自然科学教育	化学		化学的知識や理解の素養は、食糧生産の向上や環境問題の考察に欠かすことのできないものである。また、様々な化学物質が氾濫している現代社会では、市民が自身の健康を維持して行くためにも化学的な知見や理解が不可欠となっている。本講義では、身の回りの化学物質の構造や性質、化学反応の基本等を解説することで、身近な現象を化学的に考察する能力を養うとともに、有機化学や無機化学などを含めた専門基礎科目や専門科目の理解に向けた基本的な素養を身につける。	
共通教育	基盤	自然科学教育	化学実験		中和滴定や酸化還元滴定などの実験を経験することを通じて、化学の基本的な概念を確実に身に付けることを目的とする。また、毎回の実験遂行と実験結果報告書の作成を通して、科学的かつ論理的な考察力を養うことを目指す。具体的には、実験手法の修得、データの正確な収集と解析、実験結果の解釈と考察、そして報告書の構成と記述方法について解説する。さらに、実験中の安全管理の重要性についても理解を深める。これらにより、化学の基本概念に基づいた実験的手法の理解と、実験結果を効果的に伝えるスキルを向上させる。	
共通教育	基盤教育	自然科学教育	物理学		物理学は、あらゆる自然科学の基礎となる重要な学問であり、大学で自然科学を学ぶ際には 必ず履修しておくべき科目である。この授業では、微積分などの高度な数学はできるだけ使 用せず、科学的な姿勢や物理学的な考え方の修得を優先する。 前半の8回では運動の法則やエネルギーなど力学の基本的な概念と原理を学ぶ。具体的に は、ニュートンの運動法則や保存則、仕事とエネルギーの関係について詳しく解説する。 後半の7回では、電磁気学と熱力学の基本的な考え方を学ぶ。ここでは、電場や磁場、電磁 誘導の法則、熱エネルギーの移動や熱機関の原理などをカバーする。これにより、物理学の 基礎をしっかりと理解し、他の自然科学の学習にも役立つ知識を身につけることが可能とな る。	
共通教育	基盤教育	自然科学教育	地学		将来の地球環境を考えるうえで、現在及び過去の地球環境に関する情報(地学で扱う内容)は、重要な知見を我々に与えてくれる。我々の身の回りにある環境や資源、気候、自然災害などを理解するにあたり、地学は基本的な知識となる。地学の内容は、太陽系の中の地球形成から始まり、地球の内部構造や地球物理現象(プレートテクトニクス、地震、重力、ジオイド、地磁気など)、気候変化、地球の歴史、生物の進化といったものまで及ぶ。地学が物理・化学・生物などを基礎にした総合科学であることを理解し、日々新知見が明らかになる動的な科学であることを理解して学ぶことが重要である。地学を学ぶことにより「農・食・環境・生命」の土台となる知識を身につけることが出来る。	

/ 5	b ^ ===	1 + 24 73			授業科目の概要	
(房		境字群 農 目区分	環境情報学類) 	業主 科	講義等の内容	備考
共通教育	基盤教育	自然科学教育	数学Ⅱ		本講義では、ベクトル空間や行列、行列の演算、線形変換について学ぶ。具体的には、ベクトルの加法とスカラー倍、線形独立、基底と次元、行列の積や逆行列、行列式の計算、固有値と固有ベクトル、対角化などが含まれる。また、連立一次方程式の解法や、それらの幾何学的解釈についても学ぶ。線形性という概念は計算の効率化やシステムの解析に不可欠であり、この概念を学ぶことにより、物理学、工学、コンピュータサイエンス、経済学など多くの分野の数理的基礎を修得する。	
共通教育	基盤教育	自然科学教 育	統計学I		基本的な統計的方法について学ぶ。統計的方法とは、問題の対象である母集団から抽出した標本データから母集団に関する結論を引き出す方法である。例えば、各種の選挙前に新聞社が調査を行い立候補者の当落予想を行うが、けっして全有権者を調査しているわけではなく、有権者の一部を調査しているにすぎない。その限られた標本から、かなり正確な予想を行っている。それが可能なのは適切な統計的方法が使われているからである。統計学Iでは、データの整理、記述統計、確率分布について学ぶ。	
共通教育	基盤教育	自然科学教 育	物理学実験		(概要)身近な現象を題材にして、力学、熱力学、光学、電磁気学といった主要な分野についての基礎実験を行う。 (オムニバス方式/全15回) (45 川端庸平/13回)力学の実験では、物体の運動や力の関係を調べ、ニュートンの運動法則を理解する。熱力学では、熱の移動やエネルギー変換に関する実験を通じて、熱力学の基本原理を学ぶ。光学の実験では、光の反射や屈折、干渉などの現象を観察し、光の性質の理解を深める。 (10 石川志保/2回)電磁気学では、電場や磁場の概念を実際の実験を通じて体感し、電磁誘導の法則を理解する。これらの実験を通じて、理論だけでなく、実際の現象を観察しながら物理学の基本的な概念を深く理解できる。	オムニバス方式
共通教育	基盤教育	自然科学教 育	地学実験		(概要) 地学の基本事項について、実験、実習、観測、解析などを行い、理解を深めるのが目的である。地質学分野における実験は、実験が実施される場所、設備及び実施者の経験に左右される。特に、必ずしも実験に必要なもの(岩石や化石など)が近くにあるとは限らないため、身近にあるものを利用できることも重要である。(オムニバス方式/全15回)(31 馬場賢治/8回)気象情報や気象観察を行うことで天気図の作成の基礎を学び、大気循環や海洋循環については、身近かな情報を利用して機構の理解を深める。また、恒星の進化過程についても実験を通して理解を深める。(62 千葉崇/7回)校内ルートマップの作製により、クリノメータ等の利用方法について学び、地層標本、粒度標本、岩石標本等の作り方を学び、地質学の基礎の理解を実験により深める。	オムニバス方式
共通教育	基盤教育	自然科学教 育	統計学II		本講義では自然科学・社会科学両方で用いられる統計的分析手法である回帰分析について学ぶ。回帰分析とは変数間の関係を関数の形でモデル化することである。例えば収穫量(y)と肥料(x)の間には肥料を増やせば収穫量が増えるという因果関係が想定される。このyとxの関係を y =a+bx とした場合、bは肥料を追加的に変化させたときの収穫量の追加的な変化の程度示す。このaやbという係数をいかにして求めるか、その代数的構造、統計的性質について学ぶ。	
共通教育	基盤教育	保健体育教育	体育実技 I		本授業では、健康でより良い生活を送るために重要な役割を果たす身体の諸機能について学ぶ。具体的には、運動不足や加齢に伴って生じる身体機能の低下や、それによって引き起こされる疾病、特に生活習慣病について理解を深めることを目的とする。そして、現在の各個人の身体機能の状態を正確に把握し、今後の変化を予測する方法を理解する。これにより、自分の健康状態を客観的に評価し、適切な対策を講じることができるようになる。身体機能を向上させるための具体的な運動方法についても学習し、この授業を通じて、受講者は理論的な知識と実践的なスキルを身につけ、健康的な生活を維持するための総合的なアプローチを理解することができる。	
共通教育	基盤教育	保健体育教 育	体育実技Ⅱ		本授業では、長期に渡り健康でより良い生活を送るために重要な身体の諸機能について学ぶ。運動不足や加齢に伴う身体機能の低下およびそれによって引き起こされる生活習慣病について理解を深め、個々の身体機能の状態を把握し、今後の変化を予測する方法を学ぶ。これにより、自身の健康状態を評価し、適切な対策を講じる能力を養う。また、身体機能を向上させるための具体的な運動方法も学び、理論と実践の両方のスキルを身につける。	
共通教育	基盤教育	保健体育教 育	運動の科学		(概要)健康でより良い生活を送るために重要な身体の諸機能について学ぶ。運動不足や加齢に伴う身体機能の低下や、それによって引き起こされる生活習慣病について理解を深め、個々の身体機能の状態を把握し、今後の変化を予測する方法を学ぶ。これにより、自身の健康状態を評価し、適切な対策を講じる能力を養う。また、身体機能を向上させるための具体的な運動方法も学び、理論と実践の両方のスキルを身につける。(オムニバス方式/全15回)(28 山口太一/8回)筋力等を含めた運動機能(持久力、柔軟性、筋肉量等)について説明し、それらの能力を向上させる手法について概説する。(60 柴田啓介/7回)骨についての理解を深めるために、骨密度の測定方法や骨密度の意味、それを増やすための運動等について説明する。	オムニバス方式
共通教育	基盤教育	情報教育	情報処理基礎演習		コンピュータの利用技術は、実社会はもちろん大学においても必須のものとなっている。この演習では、パソコンを実際に操作し、Windows(基本ソフト)の基本操作ならびに、代表的なアプリケーションソフトであるワープロソフト、表計算ソフト、プレゼンテーションソフトの基本を学習する。毎回、演習の結果を授業の最後に提出する。本演習で学ぶPCの活用方法は、大学での勉学において基礎となるものである。上級学年では、さらに高度な応用が求められる。この科目は、知識の活用能力、表現能力、コミュニケーション能力を身に付けることに寄与している。授業全体を通して情報利活用能力を養成する。	
共通教育	基盤教育	情報教育	情報科学の基礎		コンピュータと情報処理の基礎を学び、情報機器操作の基本的な考え方を理解する、コンピュータの概念から実社会における情報システムまでを概観し、コンピュータを利用するために必要となる知識や考え方を学ぶ。さらに、情報社会において重要なセキュリティの問題や知的財産権についても取り上げる。情報科学は、いまや数学や物理学などと同じように、諸科学の基礎となっている。在学中はもちろん実社会でも必須である。この科目は、批判的・論理的思考力を身に付けることに寄与している。この授業は、情報モラルに関する内容を含む。	

/ =	# & T E	ᄨ	+교 1 호 가=		授業科目の概要			
(万		児子群 辰 目区分	環境情報学類) 授業科目の名称	業主 科要 目授 講義等の内容				
共通教育	基盤教育	情報教育	情報処理演習		表計算ソフトは、表の集計はもちろんさまざまなデータの処理や分析に利用することができる。この演習では、表計算ソフトを用いたデータの処理と分析の方法を学ぶ。情報処理基礎演習で学習した内容を復習した後、より複雑な関数の活用やグラフの作成などを学ぶ。さらに、基本的な統計処理や処理の自動化を学ぶ。これらを踏まえて、より高度な問題への応用を試みる。毎回、演習の結果を授業の最後に提出する。この演習で学ぶ表計算ソフトの活用方法は、各種実験・実習でデータを取り扱う際の基礎となる。この科目は、知識の活用能力、批判的・論理的思考力、問題解決力を身に付けることに寄与している。授業全体を通して情報の利活用能力を養成する。			
共通教育	基盤	外国語 教育	英語 I		短いフレーズや基本的な表現を使って、身近な内容について話したり、簡単な質問に答えたり、指示に従ったりする力を向上させることを目指す。基本的な日常会話のパターンを学び、英語で簡単な発言をする力を身につける。趣味や家族、大学生活など馴染のある話題を扱った短く平易な文章をテキスト教材として用い、看板、標識、表などを視覚教材として用いることで、基本的な読解力を身につける。さらに、基本的な文法や語彙、表現を確認し、正確な英語を修得する。			
共通教育		外国語 教育	日本語 I		本講義は、外国人留学生を履修対象とし、大学生活に必要な実践的な日本語力を養う。 基本的な文法事項や語彙、表現を確認し、それらを用いて自分の意見や考えを表現する力を 向上させることを目指す。日常生活や学術的な場面で活用できる実践的な日本語力を身につ けるため、文化、科学、社会問題など幅広いテーマの新聞・雑誌記事やエッセイなどを教材 とした読解を行う。それをもとにした作文や議論を行うことで、大学の授業や日常生活にお ける行事で活躍できる日本語力を修得する。			
共通教育		外国語 教育	英語 II		基本的な日常会話を理解し、参加する英語力を養う。英語による簡単な指示や説明を理解し、応答したり、身近な話題について英語でやりとりしたりする力を向上させることを目指す。聴解力を向上させるため、短い物語や対話の内容を聞き取る練習を行う。身近な話題を扱った比較的平易な文章を教材として、英語で情報を理解するための基本的な読解力を身につける。さらに、基本的な文法と語彙の修得に重点を置き、実用的な英語を修得する。			
共通教育	基盤教育	外国語 教育	日本語Ⅱ		本講義は、外国人留学生を履修対象とし、多様な場面に対応できる高度な日本語力を養う。 文法事項や語彙、表現を確認し、それらを用いて自分の意見や考えを表現し議論する力を向 上させることを目指す。社会生活や学術的な場面で活用できる実践的な日本語力を身につけ るため、文化、科学、社会問題など幅広いテーマの新聞・雑誌記事やエッセイ、学術論文な どを教材として、読解を行う。さらに、それをもとにした作文や議論を行うことで、学術的 な場面など幅広い状況で活躍できる日本語力を修得する。			
	基盤教育	外国語 教育	英語Ⅲ		英語による平易な説明を理解し、情報交換や簡単な説明を行う力を向上させることを目指す。聴解力(Listening Comprehension)向上のため、物語や解説、会話などの音声教材を用いて内容を聞き取る練習を行う。また、講義や身近な問題など馴染みのある内容の文章や、平易な新聞・雑誌の記事を教材として、読解力(Reading Comprehension)を身につける。さらに、文法と語彙の習得にも重点を置き、応用力のある英語を修得する。			
共通教育	基盤	外国語 教育	中国語 I		中国語の講義では、中国語の発音、語彙と文法などを正確に修得し、聞く、話す、読む、書くなど四つの基本技能を体得する。中国語Iでは、主に入門、初級レベルの中国語の修得と実践を目指し、日常的な挨拶語と簡単な会話を聞き取れる、話せる、実用的な会話能力、及び中国語を日本語へ訳せる、反対に日本語を中国語へ訳せる簡単な作文能力を養成する。また、言葉の修得と同時に、折に触れて、中国語、中華圏に関する話題も提供し、広い視野で中国語に対する関心、学ぶ力に繋げる。とりわけ、激しく変化する現代において、中国語の役割について考える。			
共通教育	基盤	外国語 教育	ハングル I		ハングル I では、基本的な文法と語彙の修得に重点を置きながら、韓国語の四つの音声(母音、子音、複合母音、複合子音)とそれに対応する文字を学ぶ。さらに、日常生活で使われる基本的な表現や会話のパターンを修得し、実践的な会話力を養う。授業では、リスニング、スピーキング、リーディング、ライティングの各技能をバランスよく強化し、自信を持って韓国語を使用できるようにする。また、言語の学習を通じて韓国の文化や社会についても理解を深め、異文化交流の意義を実感し、多様な視点を養う。			
共通教育	基盤教育	外国語 教育	英語IV		社会生活に必要な日常会話や意見交換ができる英語力を養う。ニュースや新聞・雑誌記事、動画・映画など、さまざまなメディアをとりいれた教材を用いて聴解力・読解力を向上させることを目指す。また、それらの内容について英語で意見を述べ、他者と意見を交換する練習を行う。具体的な情報や理由を挙げて自分の考えを英語の文章で表現する練習を行う。さらに、文法や語彙の強化にも重点を置き、さまざまな状況に英語で対応できる力を身につける			
共通教育	基盤教育	外国語 教育	中国語Ⅱ		中国語の講義では、中国語の発音、語彙と文法などを正確に修得し、聞く、話す、読む、書くなど四つの基本技能を体得する。中国語IIでは、中国語Iの入門講義をふまえ、継続して入門、初級レベルの中国語の修得および応用力を備えることを目標とする。具体的には、基本的な発音と会話の演習を繰り返し行う。また、中国語Iに続いて、言葉の修得と同時に、折に触れて、中国語、中華圏に関する話題も提供し、それらの文化の理解と、広い視野で中国語に対する関心、学ぶ力に繋げる。			
共通教育	基盤教育	外国語 教育	ハングルⅡ		グローバル化が進む中、コミュニケーション能力と異文化理解力の重要性が増しているなか、ハングル II では、ハングル I の学習内容を踏まえて、基礎的な韓国語の修得に加え、韓国の文化、歴史、社会構造も学ぶ。日常会話や基本的な文法の修得に加え、伝統行事、現代の社会問題、ビジネス慣習など多岐にわたるテーマを取り上げ、グループディスカッションやプレゼンテーションを通じて実践的なスキルも向上させ、韓国語の基礎を確立し、韓国社会への深い洞察を養う。			
共通教育	基盤教育	外国語 教育	外国語演習 I		さまざまな場面に対応できる実践的な英語コミュニケーション力を養う。文化、科学、社会問題など、幅広いテーマの英語教材を用いた演習を行う。グラフィックス、図表、写真を含む新聞・雑誌記事やビデオ教材などを用いて、世界各国の社会・文化を学び、社会多様性への理解を深め、円滑なコミュニケーションの方法を学ぶ。グループワーク、プレゼンテーション、対話形式のアクティビティなどを多く取り入れ、実践的な英語力を身につける。			
	基盤教育	外国語 教育	外国語演習Ⅱ		複雑な状況に対処できる高度で応用力のある英語コミュニケーション力を養う。文化、科学、社会問題など、幅広いテーマの英語教材を用いた読解力・聴解力の向上のための演習を行う。新聞・雑誌記事、動画や映画などを用いて世界各国の社会・文化を学び、社会多様性への理解を深め、円滑で効果的なコミュニケーションの方法を学ぶ。グループワーク、プレゼンテーション、対話形式のアクティビティなどを多く取り入れ、国際的な場面に対応できる英語力を身につける。			

/ #	1 4 12 12 12 12 12 12 12 12 12 12 12 12 12	1 		授業科目の概要	
(层	養食環境学群 農 科目区分	環境情報子類) 授業科目の名称	業主科要目授	講義等の内容	備考
共通教育	キャリア教育	キャリア実習		就業体験(インターンシップ等)およびボランティア活動への参加を必須とする。学外での体験を通じて、学生は低学年のうちから社会性を身につけることの重要性を理解し、実社会で求められるスキルや知識についての理解を深める。さらに、現場での経験を積むことにより、理論と実践のギャップを埋めることができ、自身の将来のキャリアについて具体的なビジョンを持つことができるようになることを期待する。こうした経験は、学生が単に学問を学ぶだけでなく、社会の一員としての自覚を持ち、実社会で即戦力となるための貴重な機会となる。	
共通教育	キャリア教育	キャリアベーシック		キャリアとは、人が生涯の中で様々な役割を果たす過程で、自らの役割の価値や自分と役割との関係を見出していく連なりや積み重ねのことを指す。本授業では、グループ学習やディスカッション等のアクティブラーニングを取り入れ、キャリア教育の基礎となる以下2点について理解を深めていく。・自己理解(自己役割理解、自己の動機付、前向きに考える力、忍耐力、ストレスマネジメント、主体的行動力や自身の勤労観・職業観等の価値観を知る。)・環境理解(社会を理解し、社会に求められている力を理解する(人間関係形成・社会形成能力)また、業界や職種を知る。)	
共通教育	キャリア教育	キャリアデザイン I		キャリアとは、人が生涯の中で様々な役割を果たす過程で、自らの役割の価値や自分と役割との関係を見出していく連なりや積み重ねのことを指す。本授業では、2年次開講科目のキャリアベーシックより発展的な内容として以下3点について取り組んでいく。・業界/職種/企業研究(幅広い業界や職種、企業を知り、具体的に調べ、考える。)・自己理解/自己管理能力(自ら行うべきことに意欲的に取り組む上で必要な課題対応能力、自ら主体的に判断してキャリアを形成していくキャリアプランニング能力)・進路の具体化(就職、進学等の卒業後の進路を考える。)	
共通教育	キャリア教育	キャリアデザインⅡ		キャリアとは、人が生涯の中で様々な役割を果たす過程で、自らの役割の価値や自分と役割との関係を見出していく連なりや積み重ねのことを指す。本授業では、グループ学習やディスカッション等のアクティブラーニングを取り入れ、実践的な就職活動準備を実施していく。 エントリーシートなどの表現能力、採用面接などのコミュニケーション能力を身につけることに寄与し、興味のある業界や職種、企業について深く調べ、志望業界や企業から求められる力を把握し、進路実現のため積極的に(主体的に)行動することができる力を養う。	
共通教育	全学共通教育	全学共通科目A		(概要)日本の急激な人口減少に対して、地域社会の新たなあり方が求められている。特に農業に関しては農産物の生産から流通、さらに6次産業化までの現状を学び、新たな地域活性化を目指す必要がある。また、世界の様々な国際関係、さらにはメディアとの関わりが地域経済に及ぼす影響も大きい。地域自治体や企業と連携した実例を学びながら、環境保全及び地域創生・地域イノベーションに貢献できる社会的知識を身につけるため、全学共通科目として開講する。 (オムニバス方式/全15回) (2 相原晴伴/5回)6次産業化論、農産物流通を担当 (24 阿部茂/5回)食品加工(応用)、食品衛生管理(応用)を担当 (11 正木卓2回)農業および食品加工・流通関連法規を担当 (5 吉岡徹/1回)経営及び経営分析を担当 (57 宮崎早花/1回)食品衛生管理の基礎を担当 (58 小泉次郎/1回)食品加工の基礎を担当	オムニバス方式
共通教育	全学共通教育	全学共通科目 B		(概要) 今日、急速に世界のグローバル化が進み、問題が分野を越えて複雑化する中で、地球上の全ての健康を担保するために異分野が協力連携する「ワンヘルス(一つの健康)」という概念が国連を始めとする国際社会で重要視されている。これは本学創立者の黒澤酉蔵が遥か以前に提唱した「健土健民」「循環農法」と大いに共通するものである。本講義では、建学の精神を具現化する本学の最新研究を、「ワンヘルスサイエンス」というキーワードを軸に紹介し、全学共通科目として開講する。(オムニバス方式/全15回)(36 岩野英知/3回)生物学的な知識をベースに薬剤耐性菌の問題、その新しい対策としてのファージセラピーについて講義し、人、動物、環境を含めたワンヘルスの問題点を解説する。(37 樋口豪紀/3回)牛に感染するマイコプラズマ属細菌による乳房炎、呼吸器病、関節炎など多彩な病態を解説し、これらの感染症が人、動物、環境を含めたワンヘルスの問題であることを解説する。(21 天野朋子/3回)牛の遺伝学的知識を応用した育種学について解析し、ワンヘルスを効率的に実践する酪農学を解説する。(27 岩﨑智仁/3回)食品素材についての知識をベースに、人、動物の健康についてワンヘルスの概念を解説する。(33 保原達/3回)自然界における有機化合物などの解析により、人、動物、環境を含めたワンヘルスの問題を解説する。	
共通教育	全学共通教育	学外農場実習		本実習は、20日間にわたり学外で行う実践的なプログラムであり、単なる体験授業ではなく、北海道内の実際の食料生産農家での宿泊実習である。農家の方々を教師として、日常の農作業や酪農の実務に直接参加することで、農業の現場を体験し、農業(酪農)に対する理解と認識を深めることを目指す。こうした実習を通じて得た知識や経験を、今後の専門科目での学びに活かせる能力を身につける。さらに、生産現場における具体的な技術を学ぶことで、食料生産の理論と実際を総合的に理解する力を養う。本実習では、実際の現場で働く農家の方々との交流を通じて、農業の意義や重要性についても深く考える機会が提供しされるため、学生は理論と実践を結びつけた総合的な視点を持つことができるようになる。	
共通教育	全学共通教育	博物館実習		学内実習(実務実習・見学実習)や館園実習を通して、学芸員として必要となる知識や技術を修得し、博物館の実態と学芸員業務を理解し、学芸員としての実践的能力を養うことを目標とする。 学内実習において、実務実習では主に剥製標本の取り扱い方法、管理・維持について学び、剥製標本を用いた展示会の企画・運営を行う。見学実習では道内の様々な博物館について調べ、その現状を理解する。 館園実習では希望する博物館において、1~2週間ほど実際の学芸員の実務を経験する。	

				(用紙 日本産業	美規格 A 4 縦型)
				授業科目の概要	
(農	食環境学群 農	環境情報学類) 	業主	<u></u>	Π
	科目区分	授業科目の名称	業 料 目 授	講義等の内容	備考
共通教育	学群専門導入 教育	健土健民・農食環境学 入門実習	0	(概要)本実習では、本学のフィールド教育研究センターおよび関連施設での基礎的な農作業を体験し、また、提供される特徴的な実習に参加することで、初歩的な技術の実際を理解し、畜産・農業の基礎を学ぶ。これにより、本学の建学の精神である「健土健民」の意味を実感し、私たちの食料が動植物の生命に由来して生産されていることを体験的に理解する。また、生命や自然に対峙する現場での作業や方法に、人間が作り上げてきた歴史と文化を読み取ることを学ぶ。この過程を通じて、学生は科学的思考力および柔軟な思考力を養成し、自然との共生や持続可能な農業の重要性について深い洞察を得ることができる。さらに、実習を通じて得た知識と技術を実際の生活や将来の職業に生かし、社会に貢献するための基礎力を培う。 (オムニバス方式/全15回) (41 西寒水将/5回) 酪農・畜産の実習を担当 (23 薦田優香/4回) 作物の実習を担当 (23 薦田優香/4回) 食と健康分野の実習を担当 (13 毛利泰大/2回) 農食環境情報学分野の実習を担当 (52 伊吾田宏正/2回) 環境共生学分野の実習を担当	
共通教育	学群専門導入 教育	建学の精神と農食環境 学概論	0	本講義では、まず酪農学園の建学の理念の成り立ちを学ぶ。農業・食料生産、生命・環境問題に関する学園の時代的ミッションについて深く掘り下げ、創立者の学園創立までの沿革や、その時代に生きた理念と思想を通じて、学園の歴史と使命を理解する。次に、土、微生物、作物、家畜、食料、経営、社会、食品加工、食品成分分析、食品の開発および流通、環境や野生動物との共生について体系的に学ぶことで、農食環境学群教育の全般的な基礎を身につける。この講義を通じて、学生は農業や食料生産に関連する複雑な問題を多角的に理解し、持続可能な社会の構築に向けた知識と視点を養う。	
専門教育	学群専門教育	畜産学総論		(概要)畜産に関連する専門科目を学ぶための基礎知識として、畜産のはじまり、近代畜産の発展を理解した上で、主要家畜である牛、豚、馬、緬羊・山羊、鶏の品種、その起源や特性を知る。また、これらの主要家畜以外にも世界各地で飼養されている家畜についても知る。さらに、畜産を行う上で重要な、飼料、病気、管理の基本についての理解を深め、わが国の畜産の現状と世界との比較について学び、将来の畜産を考える。加えて、社会において畜産が果たす役割、意義および使命を理解し、社会に貢献できる専門家に必要な知識を身につける。本科目をとおして知識の活用能力、理論的な思考力、探求力の修得と向上を目指す。 (オムニバス方式/全15回) (21 天野朋子/4回)家畜の発生、繁殖生理 (40 山田未知/5回)家畜の管理、近代畜産と畜産の未来について (56 土井和也/3回)飼料作物の種類、飼料作物の生産 (22 菊佳男/1回)家畜の衛生と病気について (41 西寒水将/2回)畜産経営について	
専門教育	学群専門教育	土壌学		農学分野でも環境学分野でも土壌について学ぶことは重要である。なぜならば、土壌がどのように作られ、土壌がどのような機能を持つかは、食料生産と環境に直接的かつ間接的に深く関係するからである。土壌の生成や機能を学ぶことは、食料生産と環境分野の多くの授業・実験・実習科目と関連がある。個別の知識・技能として、学生自身の興味関心のある農学分野あるいは環境学分野において、土壌の位置づけや土壌の維持・管理について考え、それを説明できるようになることが望まれる。	
専門教育	学群専門教育	作物生産学 I		北海道の主要な畑作物であるムギ類、トウモロコシ、マメ類、バレイショ、テンサイの生理・生態的特性とそれに関連した栽培管理を学ぶ。また、これら畑作物の収量の成立過程を生育過程や収量構成要素から学ぶ。各作物の成長段階や環境要因が収量に与える影響を理解し、適切な栽培管理技術を修得する。これらの知識を基に、作物の安定多収・高品質を目指した作物栽培学的な対策を考える力の基礎を養う。持続可能な農業を実現するための先端技術や環境保全型農業の手法も学び、実際の農業現場での応用力を高める。これにより、作物生産に関する科学的知識と実践的な技術を身に付ける。	
専門教育	学群専門教育	マーケティング論		マーケティングという言葉は今や私たちの社会にも浸透し、ニュースなどで耳にする機会も増えてきた。しかし、まだ曖昧なとらえ方をされていることが多く、人によって異なるイメージを持っている。本講義では、マーケティングを初めて学ぶ学生を念頭に置き、マーケティングの概念や理論を基礎から学習する。企業側から見たマーケティング活動や市場との関係だけでなく、消費者の行動とマーケティングの関係についても学び、マーケティングを多角的な視点から総合的に学習する。そうすることによって、いかに私たちの日々の消費行動がマーケティングと密接に結びついているかを知り、マーケティングを身近なものとしてとらえ、企業の経済活動や経済システムと自分自身の繋がりに関心を高めてもらうことを目標とする。	
専門教育	学群専門教育	植物生態学		(概要) 植物生態学の幅広い分野の中でも特に、個体群生態、群集生態、生理生態、そして生態系生態に関する部分を重点的に学習する。 (オムニバス方式/全15回) (48 松山周平/10回) 個体群生態では、植物の個体群がどのように成長し、繁殖し、生き残るのかについての理論と実践を、群集生態においては、異なる植物種が共存するコミュニティの構造や動態、相互作用について説明する。 (33 保原達/5回) 植物が環境条件にどのように適応し、機能するのかを生理的な観点から解説し、植物が生態系全体の中で果たす役割や、エネルギーと物質の流れ、栄養循環などの大規模なプロセスについての理解を深める。	オムニバス方式
専門教育	学群専門教育	気象学の基礎		大気や海洋の現象は、我々の身近に起こっている小さな旋風から海洋大循環に代表されるような地球規模で生じているものまで幅広い。これらが、人間・社会・経済活動や自然環境など、多岐に影響していることは言うまでもない。そこで、本講義では、基礎的な気象のメカニズムや大気の特性について解説を行い、現象の考え方や捉え方を理解することを主目的とする。また、同時に季節の話題についても触れ、気象と季節の関係も把握できるようにする。これらは「農・食・環境・生命」の土台となる知識を身につけることになる。	

				授業科目の概要	
(農	養食環境学群 農 科目区分	環境情報学類) 授業科目の名称	業主料長	講義等の内容	備考
専門教育	学群専門教育	草地・飼料作物学		(概要) 寒地における主要な飼料作物の来歴、生育特性、栽培管理法の基本を解説する。(オムニバス方式/全15回) (56 土井和也/11回) 草地がもつ多面的機能を解説しつつ、草食家畜の重要な飼料基盤である寒地型草地の維持管理および造成・更新技術の基本を解説し、持続的で環境保全的な草地管理を詳しく説明する。さらに、そのように栽培され収穫された粗飼料の調製技術についても解説する。(15 義平大樹/4回) 草地の管理や維持、土壌の診断、環境保全、寒地特有の気候条件に適した草地の管理方法や、効果的な粗飼料の調製・保存技術について詳しく解説する。	オムニバス方式
専門教育	学群専門教育	園芸生産学 I		農産物のグローバル化が加速する中、野菜は国産品の需要が高く、農家所得の向上に寄与する作物分野である。また、環境保全型農業の実践や野菜の持つ機能性に加え、有機農業についても消費者の感心が高まっていることから、授業では、園芸品目の植物生理・生態に基づく栽培技術に加えて、病害虫の防除技術および栄養と多機能性、さらには行政施策についても説明する。このことにより、より現場に即した野菜の栽培に関する知識を修得することができる。これらのことにより、専門的知識と技術を修得するとともに、総合的思考力および判断力を修得することで、社会に貢献できる能力を養う。	
専門教育	学群専門教育	食品産業論		私たちは豊かな食生活を享受しているが、食品が製造され消費者のもとに届くまでには多様な経済主体による多くの活動がある。本講義ではそれら食品産業の各主体の役割と意義について学んでいく。食品産業は食料の生産から消費までの一連の流れであるフードシステムの枠組みの中でとらえる必要があるため、本講義ではまずフードシステムの全体像を理解した後、食品産業の位置づけや役割、その社会的責任について学習する。また、フードシステムの最終地点が私たち消費者であることを認識し、消費者を含めたフードシステムの構成主体の相互理解の重要性やこれからの農業や食のあり方についても学ぶ。	
専門教育	学群専門教育	乳肉科学		(概要) 畜産の生産物である乳と肉について、その食料利用に係る内容について説明する。(オムニバス方式/全15回) (59 平山洋佑/8回) 【乳科学分野】乳は人類が利用した最古の食材の一つである。乳の特性や乳製品の製造工程などを理解するために、乳中のタンパク質、脂質、炭水化物そしてミネラル類の特徴について概説する。加えて、乳の物理化学的諸性質ならびに栄養性、生体調節性など乳の機能に関する内容も解説する。 (55 長谷川靖洋/7回) 【食肉科学分野】食肉は動物の筋肉であり、さまざまな生化学的および組織学的な変化を得て筋肉から食肉に変化する。これらの変化を経た食肉は安全安心な食品として広く流通されており、加工することで保存性も高く、また、嗜好性が高い食品になることを理解する。	オムーハス万式
専門教育	学群専門教育	野生動物学の基礎		(概要) 野生動物の保全や管理のために必要な基礎的な知識について、国内のシカ、クマ、サル、イノシシ、中型哺乳類、鳥類、両生類、爬虫類に関する解説を行うとともに、本学協定校のマレーシア・サバ大学が位置するボルネオ島の野生動物に関する講義を行う。それぞれの分類群等毎に生物学、生態学、モニタリング、保全、人間との軋轢等についての学問分野を学ぶ。 (オムニバス方式/全15回) (52 伊吾田宏正/3回) シカに関する解説を行う。 (34 佐藤喜和/2回) クマに関する解説を行う。 (49 森さやか/2回) 鳥類に関する解説を行う。 (50 立木靖之/2回) サル、イノシシに関する解説を行う。 (61 伊藤哲治/2回) 中型哺乳類に関する解説を行う。 (47 原村隆司/2回) 爬虫類に関する解説を行う。 (51 鈴木透/2回) 両生類に関する解説を行う。	
専門教育	学群専門教育	動物生態学		動物の「生態」、つまり「個体や集団レベルにおける生きざま」を、脊椎動物を中心題材として学び、進化、適応、生物間相互作用、個体群動態など、動物生態学の基礎理論を理解することを目的とし、具体的には動物の行動や生態系内での役割、環境への適応戦略などを探求する。また、3年次以降のより専門的な学びを進める上で、人間の活動と環境や動物との関係、及びそれに関連する諸問題について、科学的視点から考究する能力を養う。これには、保全生態学、野生動物管理、生物多様性の保護など、現代の環境問題に対応するための知識とスキルも含まれる。動物生態学の理論と実践を通じて、持続可能な社会の実現に貢献できる人材を育成する。	
専門教育	学群専門教育	作物生産学Ⅱ		稲作全般、水稲の生育過程について解説する。また、栽培技術や環境要因などが水稲の生育、収量、品質に及ぼす影響について学習する。作物栽培の目的は高い収量性であり、収量の成立過程を生育過程や収量構成要素から学習する。近年のコメには高品質、良食味も求められており、栽培技術や品種がコメの品質、食味に及ぼす影響についても解説する。本授業は、水稲栽培に関する知識の活用能力、作物の多収・高品質を目指した問題解決力を身に着けることに寄与する。	
専門教育	学群専門教育	食品流通論		本講義では、食品流通システムに関連のある諸問題の改善策や対応策について主体的に考察することができる能力を養う。食品が生産者から消費者に届くまでの流通プロセスを総合的に理解することを目的とし、基本的な理論と実際の個別の食品の流通機構や流通システムを学ぶ。食品供給チェーンの各段階(生産、加工、流通、販売、消費)を詳しく学び、市場構造や物流システム、食品の品質管理、輸送手段、冷蔵・冷凍技術、流通における情報管理とトレーサビリティなどのテーマが含まれる。また、国内外での食品流通の違いや食品安全保障、環境への影響、消費者のニーズとその変化などにもふれる。	
専門教育	学群専門教育	クマ学		地域の野生動物問題を解決できる知識と技術を身につけた人材を育成する野生動物学コースのカリキュラムツリーにおける野生動物とその保全と管理に特に必要とされる生態学的な知見を、わが国最大の陸上哺乳類であるヒグマやツキノワグでを題材に身につけることを目的とする。生態学は環境と生物との相互作用を研究対象とする学問である。多くの生物が、形態や生理、行動などのあらゆる面で、その生息環境によく適応した性質を持っている。クマ類を中心に、生物進化の過程で獲得されたこれらの性質について生息環境との関わりの中で理解し、生態系や生物多様性の保全に必要な知識について説明していく。専門基礎科目「動物生態学」の学びを元に、そこから野生動物の保全と管理に発展した応用的な内容も含む。また、それぞれの調査法に関する理論と具体的方法についても解説する。	

					授業科目の概要	
(/ /		境学群 農 ■区分	環境情報学類) 授業科目の名称	業主料	講義等の内容	備考
専門教育	学群	羊専門教育	野生動物と社会		野生動物管理の現場において、対象動物の生物学的事象と同等に重要なのが人間事象に関する問題である。適正な管理のためには、住民・農家・狩猟者・行政などの利害関係者の理解を得て、彼らを巻き込むことは大変重要である。本講義では、野生動物管理における人間事象への理解とその応用について概説する。具体的には、野生動物と人間の共存に関する課題や、被害防止対策、地域社会との協力方法、法的規制や政策の役割について学ぶ。また、海外も含めた事例紹介を通じて、実際の野生動物管理の現場での問題解決能力を養う。	
専門教育	学群	羊専門教育	植生保全学		植生保全学は、植物生態学、保全生物学、造林学などを科学的根拠・技術的基盤とする応用 的な学問である。本講義では、植生保全の意義、植生保全に関する用語、概念、研究手法を 学ぶ。特に、焦点を当てて講義する題材には、日本や世界の植生とそれらを取り巻く問題、 植物の生活史や特徴・生態、希少種や保全すべき種、集団の遺伝的多様性、植物群集の種多 様性および維持機構、植物と生態系、植物群集と動物の相互作用、外来種の侵入、熱帯林の 生態と保全、植生保全学と社会などがある。	
専門教育	学群専門教育		動物の行動と管理		生産動物の管理は、管理者としての人、生活する場としての施設および生産動物自身の共同作業であり、管理者の日常的配慮が重要である。本講義では、人と生産動物の関係にふれ、家畜を管理する一般的方法について解説する。さらに、将来にも目を向けるならば、動物を取り巻く「環境」という要素を加える必要性が生じる。「動物の行動と管理」では、「動物・人間・施設・環境」といった要素を、個別的・総合的に教授し、動物の飼養現場が持続的発展をするための必要な事柄について理解できるようにする。	
専門教育	学郡	羊専門教育	肉用家畜学		(概要) 肉用家畜とは、主に肉を生産するために飼育される家畜のことである。本講義では肉用家畜についてその実務を踏まえて説明する。 (オムニバス方式/全15回) (40 山田未知/7回) 肉牛、豚、めん羊、鶏、農用馬及び競走馬それぞれの畜種におけるライフサイクルと産業の現状、品種、飼養管理の基礎知識について家畜ごとに分けて授業展開する。 (41 西寒水将/8回) 肉用家畜においては子畜生産が重要な位置を占めるため、用いる種畜、種鶏の選定とその選抜方法や繁殖管理、生産子畜の育成方法について説明する。	オムニバス方式
専門教育	学群専門教育		乳用家畜学		酪農経営における主要な収入源は牛乳生産であり、乳牛の潜在的な泌乳能力を最大限に引き出すことが重要であることについて説明する。泌乳生理、飼養管理技術、飼料給与について、実際の生産現場に即した解説を行う。講義前半では、乳脂肪、乳タンパク質、乳糖の合成と、乳牛の成長段階ごとの飼養管理の要点について説明し、飼料設計の基本的な考え方もレクチャーする。また、粗飼料、特にサイレージの作成技術やその他の飼料の栄養価と給与方法ならびに、放牧管理に関する説明を行う。	
専門教育	学郡	羊専門教育	森林環境学		森林は、植物をはじめ様々な生物と光や水や土壌や岩石や地形などの非生物とが相まって独特な環境を形成している。さらに、これらの要素は森林内でお互いに影響を重ね、より複雑な関係を築いている。また、森林はその中だけでなく森林外からも様々な影響を受けて環境を形成している。本講義では、まず森林について概説した後、森林に特有の様々な環境現象と生物との関係、様々な繋がり(物質循環、森林内・外)との関係などを中心に解説し、それがさらに連鎖的にもたらす様々な影響について講述し、課題探求力、問題解決力を高める。	
専門教育	学郡	羊専門教育	生物地球化学		(概要)大気、海洋、陸域、それぞれのシステムに内在する物質循環、またそれらをつなぐ物質循環を解説すると共に、地球、環境、生命が、どのような元素や物質の循環や動態によって制御されたり影響を受けたりしているかについて紹介する。(オムニバス方式/全15回)(33 保原達/7回)化学的な視点から地球や自然生態系の道理を理解し、説明する。(35 吉田磨/8回)様々な事象を生物地球化学的物質循環の中で分類しかつ関連づける。	オムニバス方式
専門教育	学群	羊専門教育	気象・気候学		我々の身の回りに起こっている、風や降水などのある時間帯に起こった大気中の現象を体系化したのが気象である。これに対し、長年に渡りデータを集計して、ある時期に起こりやすい現象を示すのが気候である。これは、海洋や雪氷、森林、人間社会、地理的な特徴等も含めて説明される。この科目では、我々が暮らす地球で生じている、所謂環境場としての気象や気候学について、具体的な事例を挙げながら展開を行う。	
専門教育	農境報門育	専門演習	専門ゼミナール I		専門ゼミナール I では、学生は各研究室に配属され、少人数制の議論中心の講義スタイルを通じて基礎的な知識とスキルを修得する。特に、世界的な環境問題が地域産業、特に農業に与える影響を理解し、その地域課題を把握し問題点を整理する能力を養う。課題の設定や解決に必要な情報の収集方法を学び、調査データの基本的な分析手法を修得する。これにより、学生は卒業研究に向けた基礎的なリサーチ能力と論理的思考力を身につける。	
専門教育	農境報門育	専門演習	専門ゼミナールⅡ		専門ゼミナールIIでは、専門ゼミナールIで得た議論中心の講義スタイルをさらに発展させ、基礎的なコミュニケーション能力を高める。具体的には地域の(特に農業やその環境に関しての)問題を深く掘り下げ、個々に課題を見出し、相互討論や対話を通じてプレゼンテーション能力の基礎を養う。学生は討論を通じて自分の考えを明確にし、他者に効果的に伝える技術を修得する。これにより、卒業研究に向けた基礎的な表現力と協働力を身につける。	
専門教育	農境報門育	専門演習	卒業研究 I		卒業研究Iでは、各学生は学類の配属された研究室において、研究室で取り組む課題の中から個々の卒論研究課題を設定し、基礎的な研究スキルを養う。教員や研究室の学生と共に、研究テーマの設定、データ収集、初歩的な分析方法を学ぶ。研究の一連の工程について、体験し、実際に経験することで、専門ゼミナールで学んだ課題の捉え方や知識・情報の整理と分析を実際に応用し、研究を進める中で基礎的なリサーチ能力とと基本的な問題解決能力を磨く。	
専門教育	農境報 門育	専門演習	卒業研究Ⅱ	0	卒業研究Ⅱでは、専門ゼミナールⅠ、Ⅱや卒業研究Ⅰで学んだ基礎的な課題解決能力を活かし、地域の問題に関する卒業研究を論文にまとめる訓練を行う。少人数制の討議を通じて研究内容を深め、プレゼンテーション能力も基礎から向上させる。卒業論文の作成では、文章構成の基本、表現方法、説明技術を修得する。これにより、学生は基礎的な表現力と協働力をはじめとして、将来の実践的な課題解決に向けた基礎的なスキルを総合的に養う。	
専門教育	農境報門育	専門演習	研究発表		卒業研究ⅠとⅡで得られた研究の成果を学内(学外)に公表するための科目である。本科目では、学内で開催される研究発表会で論文発表を行い、かつそれを卒業論文として学術論文の形式に仕上げる。これらを通じて、問題解決能力や論文執筆能力をはじめとするさまざまな学術的な研究能力を向上させる。さらに研究成果をわかりやすく説明するプレゼンテーション能力や、専門家や同僚に加えて前提知識の少ない聴衆からの質疑応答に対する能力も修得する。	

					授業科目の概要	长观俗A 4 桃空/
()			環境情報学類)	業主		/#* +*
		目区分	授業科目の名称	科要 目授	講義等の内容	備考
専門教育	農境報門 育	専門科目	農環境情報学概論I		農環境情報学の構成要素である地域データサイエンス全般について概略を解説する。本学類の目指す農環境学のデータサイエンティストのイメージは、データ分析力と現場感を併せ持ち、コミュニケーション力を活かして組織や地域を少しずつ変えていける人材である。本学類で学ぶ技術とその活用方法を概観しながら、そのイメージを共有する。具体的には、数理情報、空間情報、経済、農業工学の各分野とデータサイエンスとの関連について学ぶ。	
専門教育	農境報門育	専門科目	GISリモートセンシング 基礎	0	(概要) GIS (地理情報システム)・RS (リモートセンシング)及びGPS(全球測位システム)は空間情報の代表的な解析ツールである。本授業では、"3S"技術であるGIS、RS、GPS及びUAV (無人航空機=ドローン)の概念・基礎から応用基礎・実利用までを実務経験を積んだ教員の研究事例に基づき、最先端の技術のレビューを取り入りながら、空間情報の科学としての自然環境・動植物の生態・土地利用などの分野における空間情報の収集・解析・生産までのプロセスを理解する。 (オムニバス方式/全15回) (32 星野仏方/7回) GISとRSについて上記の内容を説明する。 (8 小川健太/8回) GPSとUAVについて上記の内容に則して説明する。	オムニバス方式
専門教育	農境報門育	専門科目	農環境情報学概論Ⅱ	0	農環境情報学の主要な学問領域の一つであるアグリデザイン全般について概略を解説する。 アグリデザインとは、アグリカルチャー(農業)に関係する事象や経営・経済などの定性 的・定量的情報をベースに、未来の農業へのデザインを志向する学問である。 具体的には、生産主体である農業者の経営を始めとして、共同的対応としての協同組合、市 場対応、地域連携に加え、そうした活動に影響を与える農業政策や法律についても解説する。	
専門教育	農境報門育	専門科目	経済原論		マルクス経済学・ミクロ経済学・マクロ経済学の基本的な理論について解説する。経済学の理論は、分析対象や分析方法によって多様である。それぞれの理論の概要の知識を身につけることで、より発展的な経済学の学習の準備とする。マルクス経済学は資本主義経済の構造を分析するもので、資本家と労働者との経済的な関係について説明する。ミクロ経済学は価格による需給調整を分析するもので、価格変動の要因などについて説明する。マクロ経済学は一国の経済の規模がどのように決定されるかを分析するもので、景気変動や財政・金融政策などについて説明する。	
専門教育	農境報門育	専門科目	資源リサイクルと環境 保全		持続可能な社会の実現に向けて、資源リサイクルと環境保全の重要性を理解し、実践的な知識とスキルを修得する。資源リサイクルとは、廃棄物を再利用して新たな製品を作り出し、資源の枯渇を防ぐことを指し、循環型社会の基盤であり、環境保全は、自然環境を守り、人類の健康と生態系のバランスを維持することを目的としている。地球で人類が今後も生存するために必要な資源、エネルギー、環境保全に対するルールの重要性を学び、そして、なぜ循環型社会の構築が必要かを深く理解し、持続可能な社会の実現に向けた実践的な知識とスキルを身につける。	
専門教育	農境報門育	専門科目	GIS基礎演習		GIS (地理情報システム) について、基礎となる知識や操作方法を学ぶことを目的とする。 ソフトは、ESRI社ArcGIS Proを使用する。本演習では、GISの活用事例も紹介し、知識と技 術修得後の活用方法も学ぶ。修得する基礎知識と操作は、GISのコンセプト、座標系、GIS データの種類と作成方法、地図表現(2D、3D)等である。操作方法だけでなく、地図デー タを用いて対象を理解する方法(データの解釈)についても課題等を通して練習する。3年 次以降の卒業研究や自然環境保全や農業等の仕事を行う上で活用が期待される。	
専門教育	農境報門育	専門科目	経済学基礎理論	0	(概要)農業経済学を学ぶ上で必要な経済学の基礎理論を学ぶ。ミクロ経済学は資源配分のメカニズムを明らかにすることを目的にしている。資源配分とは労働、資本、土地、エネルギーなどの資源をどのような財やサービスの生産に配分するのかという問題である。現実の経済で資源配分に関わる問題は多数存在する。その問題を解き明かす視点を学ぶのがこの講義の目的となる。本講義では、ミクロ経済学に関連する厚生経済学、開発経済学の基礎的な理論も関連して講義をする。 (オムニバス方式/全15回) (4 小糸健太郎/8回)価格メカニズム、消費者理論を担当 (13 毛利泰大/7回)生産者理論、市場構造を担当	
専門教育	農境報門育	専門科目	経営学入門		企業の活動を多面的に研究する経営学の基礎を学ぶための講義である。本講義では、経営学の全体像を把握しながら、主要な理論とその応用について学習する。具体的には、企業システム論、経営戦略論、経営組織論、経営管理論といった分野を取り上げ、それぞれの主要な研究内容を学ぶ。また、この講義のカリキュラムは経営学検定試験(初級)の試験範囲を考慮して設計されており、受講者は検定試験対策としても活用できる。企業の実態を理解し、農業経営についても言及しつつ、経営学の理論を体系的に学ぶことで、経営に関する基本的な知識を修得する。	
専門教育	農境報門育	専門科目	再生可能エネルギー入 門	0	風力、太陽光、水力、バイオマスなどの再生可能エネルギー発電事業が盛んに行われている。一方で、電力の供給過剰を避けるため再生可能エネルギー電力の出力抑制の問題も出始めている。本講義では、これらの再生可能エネルギー利用に関する基礎技術から、その応用の可能性、事業経営に係る様々な話題、地域社会との共存に関する課題を紹介する。特に、再生可能エネルギーの中でもバイオガス発電に特化し、日本での利用や運用について最新の研究レベルの内容も交えて教授する。また、バイオガス発電の現場見学も行う。	
専門教育	農境報門育	専門科目	農畜産物市場論	0	農畜産物市場に関する知識は、生産者にとっては有利販売の戦略の立案のために、流通業者にとっては仕入・販売の改善のために重要である。この講義では、農畜産物市場の仕組みを解説するともに、近年の動向について説明する。まず、農畜産物市場の特徴を理解するために必要な需給調整、価格形成、市場政策などの概念を解説する。次に、農畜産物・食料の消費・流通・生産の状況について説明する。そして、農畜産物の品目別(米、小麦・大豆、青果物、牛乳・乳製品、食肉・肉製品など)の市場の特徴を明らかにする。	
専門教育	農境報門育	専門科目	農業協同組合論		日本の農業協同組合は、ほぼ農家全戸が加入し、農業のみならず、社会全体にも非常に大きな影響力を有している。しかし、農業協同組合を含む協同組合は、一般の会社とは異なる論理で運営・展開されており、適切な知識でもって把握する必要がある。本講義では、農業協同組合の根幹である組合員制を始め、組織構造、連合会との関係のみならず、各種事業(信用事業、共済事業、販売事業、購買事業、指導事業など)の運営原則や現状についても解説する。 また、農業・農村を維持しているのは農業協同組合と行政だけでなく、各種団体(農業改良普及センター、農業共済組合、土地改良区、農業委員会)も大きく関係しており、これらの団体を理解することで農業協同組合の位置付けも明確になることから、補足的に説明する。	

					授業科目の概要				
(启		境学群 農 国区分	環境情報学類) 授業科目の名称 	業主 称 科要 目授					
専門教育	農境報判育	専門科目	日本経済論		日本経済論では、現在の日本経済の成り立ちを、歴史も交えながら多面的に解説する。当然ながら、世界経済との関係や、金融に関する事柄も含まれる。本講義では、まず、GDPを通じて日本経済の基本を理解し、産業構造の変化や技術革新、就業構造の変化と賃金動向、所得格差の要因について解説する。また、消費者物価と外国為替、資金循環と金融政策、財政状況の改善方向について解説する。さらに少子高齢化と関連した、医療・介護、公的年金といった社会保障制度の課題、人口減少が経済に及ぼす影響について解説する。さらに、地域政策の方向性について農業問題とも関連して、講義する。				
専門教育	農境報門育	専門科目	GIS応用演習		GIS(地理情報システム)を使った、野生動物の行動、観光客の行動、災害対策、生態系サービス評価、農作物の生育評価等の研究に関連するテーマをとりあげ、研究デザイン、データ収集と作成、データ整理、分析、発表を行う。この演習は、前期に行われるGIS基礎演習を受けて行う。ソフトは、ESRI社ArcGIS Proを使用する。適宜、オンラインサービスであるArcGIS onlineも用いる。基礎演習とは異なり、データから読み取れることや作成した結果についてのディスカッションも行い、様々なシーンで、ツールとしてGISを活用できることを重視する。3年次以降の卒業研究や自然環境保全や農業等の仕事を行う上で活用が期待される。				
専門教育	農境報門育	専門科目	農業資源経済学		経済学の基本理論を活用して、限られた土地やその他の希少資源の利用に起因する農業問題を学ぶ。具体的には、ミクロ経済学とマクロ経済学の理論を用いて、農業生産、資源配分、価格形成、フード・システム、政策の影響などのテーマについて学ぶ。これらから、農業に関する現実の問題を経済学的に理解し、その解決に向けた分析能力を養い、農業分野の問題解決に必要な理論と実践的な知識を身につける。(オムニバス方式/全15回)(4 小糸健太郎/11回)農業生産、資源配分、価格経済、政策の影響を担当(13 毛利泰大/4回)フード・システムの部分を担当				
専門教育	農境報門育	専門科目	地域経済論	0	1980年代以降、経済活動のグローバル化が進行し、わが国の地域経済は大きな変貌を遂げた。本講義では、わが国の経済政策と地域経済の動向を振り返り、現在、地域が抱えている様々な問題の発生要因とその実態について認識する。同時に、先駆的な取り組みを導入した地域における施策の効果を検証する。これらを踏まえた上で、地域が直面する様々な問題を解消するための施策、ならびに地域の維持・発展を導き出す施策について探求することを本講義の目的とする。				
専門教育	農境報門育	専門科目	民法・商法		民法と商法を中心として、民事法とその周辺を学ぶ。人間関係を規律する民事法は、私たちにもっとも身近な法規範であり、その基本原理を理解することは法学を専攻する・しないに関わりなく、社会的成熟に不可欠の知識である。本講義では、平易な教科書を使用し、実生活における法の機能や役割を具体的に学ぶ。 例えば、契約の成立や履行、損害賠償の基準、所有権の保護、不法行為に基づく責任、企業活動に関連する法規制などが取り扱われることにより、具体的な事例を通じて、法的問題の発見とその解決方法について考察し、批判的かつ論理的な思考力を養う。これらによって法的な知識とスキルを身につけることで、地域社会での実践的な問題解決能力を高めるための重要な法的基礎を学ぶ。				
専門教育	農境報門 育	専門科目	行財政学概論		行財政学概論では、行政学・財政学の理論を概観し、戦後から現在に至るまでの日本の中央 および地方の行政・財政の役割、特質、課題について講義する。前半の行政学では、行政の 仕組みやその形態、地域社会と地方行政の関係について解説する。後半の財政学では、政府 介入の考え方、財政の仕組み、租税の現状と理論、地方財政について説明する。本講義にお いて、関連した地域社会や農村社会における課題についても解説する。				
専門教育	農境報門育	専門科目	社会調査法	0	社会調査とは、社会事象の解明のために人びとの考え方や社会の実態を捉えようとする調査である。社会調査法の講義では、量的調査と質的調査の両方の調査手法について取り扱い、社会調査の意義・目的・手順などの考え方、調査の企画からデータファイルの作成など調査の手順とその方法、質的研究の方法など、社会調査全般に関する基礎的知識と基本的な手法を身につける。講義では題材として、実際の農家調査や地域における調査の事例についても説明する。				
専門教育	農境報門育	専門科目	簿記・会計学基礎		企業経営の改善を検討するための共通的な手法は財務諸表を作成し、その値を元にして問題 点を洗い出すことである。簿記・会計学基礎では、企業の状況を把握するため、財務諸表を 作成して経営の意思決定に役立てるための基礎知識と技術、また、企業会計で一般的に使用 される財務諸表の読み方と理解の重要性について取り上げながら、財務諸表を作成するため の基本ルールである複式簿記の仕組みを学ぶ。 会計サイクル全体の流れを理解し、それに伴う仕訳、元帳への記入、決算書の作成までのプロセスを修得する。この講義を通じて、簿記会計の基本を体系的に理解し、ビジネスシーン での活用を目指す。				
専門教育	農境報門育	専門科目	海外自然環境実習		本実習では、世界各地の自然、生態、環境、文化、そして社会について理解し、持続可能な環境への認識を高めることを目的とする。マレーシア、中国(内モンゴル)、カナダのいずれかの国を訪問し、現地の自然環境保全や持続可能な開発(SDGs)をテーマに実習を行う。滞在期間は10日から2週間程度であり、現地の専門家やコミュニティと交流しながら、環境保全活動に参加する。これにより、海外での実際の取り組みを体験し、持続可能な社会の実現に向けた各国での具体的な方法を学ぶ。学生は実習を通じて、国際的な視野を広げ、環境問題に対する意識を高めることが期待できる。				
専門教育	農境報門育	専門科目	農業機械・施設学		農業施設とは「建物を伴う農業生産の場」と定義され、営農や経営を左右する重要な分野である。ここで言う「場」とは、単なる場所ではなく、各種機械、設備を備えて生産機能の整った空間を意味する。なお、本講義は家畜飼養管理施設を主な対象とするが、一部畑作や園芸施設も対象にする。さらに近年農業分野でも導入が進めてられているICTやロボット、AI等の先端技術を活用したスマート農業について基礎知識の取得から、実践事例についても学ぶ。				
専門教育	農環情 報判 育	専門科目	統計データ分析演習		本演習では、M.S. Excel とRおよびJamoviなどの統計解析アプリケーションを用いた演習を通じて、統計分析の基礎を学ぶ。具体的には、欠損値の処理などのデータの整理、記述統計を用いたデータの記述、回帰分析、分散分析、t検定などをサンプルデータを用いた演習を行う。とりわけ、M.S. Excelの関数およびデータ分析のアドインの操作、RおよびJamoviなどの統計解析アプリケーションの操作、出力された結果の解釈について実践的に学ぶ。				

	授業科目の概要 (農食環境学群 農環境情報学類)											
(境学 郡 国区分		環境情報学類) 	業主	講義等の内容	備考					
専門教育	農境報門育	専門	科目	国際法		主権国家間の法として成立した国際法はおよそ350年の歴史と伝統をもつ大変古い法である。しかし、国際社会の変動や人の活動領域の拡大に伴って、国際法は大きく変貌している。今日の国際社会は多様な歴史、社会・経済システムをもつ国家から構成され、国際関係における非国家主体(国際機構やNGO)が重要な役割を果たすようになっている。海洋資源の利用、地球環境保全等、規律対象も拡大している。本講義では、国際法の基本理論の理解を踏まえつつ、関連判例や最近のトピックにも触れて、「生きた」国際法の実像をできる限り、明らかにする。このような国際法の知識を修得することで、国際的な視野を広げるだけでなく、地球環境問題や資源管理など、グローバルな課題に対する法的な知見と分析力を養う。						
専門教育	農境報門育	専門	科目	農業経営学		農業経営学は、農業の生産性と収益性を高めるための経営手法や理論を研究する学問である。すなわち、持続可能な農業の実現を目指し、資源の効率的な利用、市場分析、リスク管理、新技術の導入などを通じて、農業事業の最適化を図るものである。本講義では、まず農家収益構造について、農水省などの統計を用いた分析によりその変化や特徴を理解する。そして、ICT技術に関する研究成果から農業経営の収益構造に与える効果を確認し、農産物のブランド化の取り組み手法を先行事例の整理や関係機関が作成した推進策を通じて把握する。これにより、農業経営におけるいくつかの取り組みについて、その現状と効果について確認し、近年の農業経営の動向を学び、農業経営の改善手法とその効果について理解することを目指す。						
専門教育	農境報門育	専門		ボランティア活動・ NPO・NGO論		この講義では、非営利組織(NPO・NGO)の活動を通じて地域や組織の変革、働く意義、多様なステークホルダーの視点を学ぶ。ボランティア活動やNPO・NGOの経験者から、それぞれの活動分野の概要や課題、アプローチについて具体的な事例を通じて理解を深めながら、ボランティアの意義、自己実現、民主主義との関係、コミュニケーション、実践例の学習、NPO・NGOの役割と課題解決のための話し合いといった多様なテーマについてその関連も含めて学ぶ。						
専門教育	農境報門育	専門	科目	バイオマス技術入門		この講義では、バイオマスの基本概念、技術、応用、および持続可能なエネルギー源としての可能性および実践的な知識とスキルを学ぶ。 具体的には、バイオマスとは動植物由来の有機資源で、家畜排せつ物、下水汚泥、生ごみ、農作物の非食用部、間伐材、資源作物、藻類など多種多様なものであること理解し、これらを生活に役立てるために、熱、ガス、燃料、化学品等に変換する技術の必要性を理解し、バイオマスの多様性とその利用技術の現状を体系的に学ぶ。						
専門教育	農境報門育	専門	科目	アグリビジネス論	0	アグリビジネスとは、もともとは農業関連ビジネスのことであるが、近年では農業生産者による生産・販売活動をいうこともある。農業や農業・食料関連産業に従事し、ビジネスを展開するときに重要な知識となる。この講義では、アグリビジネスの多様な内容について説明する。まず、食品産業(食品流通業、食品製造業、外食・中食産業)の活動について、農業との関連に重点をおいて説明する。つぎに、農畜産物の品目別(米、小麦・大豆、青果物、牛乳・乳製品、食肉・肉製品など)の市場において、各業者が行っているビジネス活動や生産者の販売戦略を解説する。また、マーケティング戦略の基礎について説明する。そして、農業生産財(飼料・種子・肥料・農薬)を取り扱う業者のビジネス活動を解説する。						
専門教育	農境報門育	専門	科目	国際経済論		日本の経済と他国の経済との関わり合いと、貿易の基本的な理論について理解を深めることを目的とする。「外国の経済が日本にどのように影響するのか?」「なぜ貿易の自由化が推進されるのか?」など、国際経済に関係するさまざまな疑問がある。こうした疑問に答えるために、基本的な経済理論と統計や資料を用い、前半は国際収支、金融・経済政策をテーマに、後半は農業・食料貿易を念頭に貿易・貿易政策をテーマに、私たちの国と他国との経済はどのように関連しているのかについて説明する。						
専門教育	農境報門育	専門	科目	酪農・畜産経営論		わが国の酪農・畜産の外的環境を見ると、輸入飼料の価格、国内の生乳販売制度、国際的な 乳製品や畜産物の貿易体制が目まぐるしく変化をしており、生産者にはより複雑な経営に係 る判断が求められている。本講義では、酪農・畜産における経営管理の方法を学ぶととも に、経営を取り巻く外部環境の変化に対応した経営戦略について説明する。その上で、経営 者を特別講師に招き、実践報告等を交えて理解を深め、経営管理能力を養うことを目的とす る。						
専門教育	農境報門育	応用科目	アリザン域	農村社会学	0	農村社会は、単なる経済的な取引だけで成り立っているわけではない。農業経営の多くを担う家族、共有財産や共同活動を通じて結びついた集落、そして都市からの期待や影響を受ける農村など、さまざまな社会的な要素が関係している。これらの複雑な関係は、農業や農村の発展において、時に阻害要因となり、時に促進要因ともなり、その影響力は時代ごとに変化する。将来の農業や農村が都市とどのように関わっていくべきかを考察するためには、こうした経済的取引にとどまらないさまざまな関係の概念とその重要性について理解を深めることが不可欠である。このような農村社会の持つ多面的な構造を学ぶことで、私たちは持続可能な農業や豊かな農村づくりに貢献することができる。						
専門教育	農境報門育	応用 科目	アリザン 域	農業政策学 I	0	農業政策とは農業の指針を示したものである。その内容は、時代、さらには、国、都道府 県、市町村など、対象とする地域によって異なる。本講義では、わが国の農業政策の動向を 把握し、各期の政策の課題について考察する。そして、市町村など、より身近な地域を対象 とした施策の意義について理解し、各地域に適した農業政策のあり方を探求する。なお、農 業政策学は二部構成となっており、その前編に該当する本講義は主に藩政期から戦後復興期 の農業政策に焦点を当てる。						
専門教育	農境報門育	応用科目	アリザン 域	農業市場論	0	資本主義経済が発展する中で、経済全体と農業を結ぶ市場である農業市場を通して、農業が どのように変化してきたかを解説する。農業市場とは、農畜産物市場、農業生産財市場、土 地市場、農業労働市場、農業金融市場である。まず、現在の経済体制である資本主義経済の 歴史と理論を概説する。つぎに、現代資本主義の農業問題を先進国と発展途上国とに分けて 説明する。そして日本における資本主義経済と農業との関係の歴史的な展開を整理する。ま た、現在の農業市場をめぐる大きな問題である農業構造の改革と農業国際化への対応を解説 する。						
専門教育	農境報門育	応用科目	アリザン域	農業政策学Ⅱ	0	農業政策学は二部構成をとっており、本講義は2年後期に開講する「農業政策学 I 」の続編となる。「農業政策学 I 」では、時代、地域によってその内容が異なることを学んだ。また、時代区分を踏まえれば、主に藩政期から戦後復興期に焦点を当てた。本講義では、戦後復興期に続く高度経済成長期以降の農政を振り返り、グローバル化が進行し、農家数、農業従事者数の減少、さらには農村の過疎が顕著になった1980年代以降、地域と密着した施策が優位性を持つようになったことを確認する。同時に、わが国の食料自給率が低下した現状を踏まえ、基礎的食料農産物を自給することの意義について認識する。						

授業科目の概要									
(月	(農食環境学群 農 科目区分			環境情報学類) 授業科目の名称		講義等の内容			
専門教育	農境報判育	応用科目	アリザン域	協同組合学	0	日本社会のみならず、今日のほぼ全世界において様々な形態の協同組合が存在し、日々活動を行っている。それら協同組合の共通点は、自助・自律・自己責任で、資本主義の矛盾を解消しようとしていることである。それでは資本主義とは一体何なのか、いつ発生したのか、そして協同組合はどのように対処しようとしているのかについて、グローバルな歴史的展開を解説しながら、その中核に迫る。また、協同組合の原理の変遷についても解説し、協同思想が必ずしも不変ではないことを明らかにし、協同組合が協同組合であり続けるには不断の変革(アップデート)が必要であることを説明する。			
専門教育	農境報門育	応用科目	アリザン域	地域連携論	0	グローバル化や市場原理主義による社会経済の効率化が進む中で、農山村を含む地域社会ではこれまで経験したことのない諸問題が発現している。この授業では、地域社会の構造と変動について社会経済学的アプローチにより把握し、農山村再生の糸口となる地域連携について考える。講義を通じて農山村を支える大学による地域連携の役割についても学ぶことができる。なお、授業内では地域課題や地域の将来像、その実現に必要なツールを探るための実践的ワークショップを実施する。			
専門教育	農境報門育	応用科目	アリザン域	簿記・会計演習	0	簿記・会計演習では、企業会計の実際を踏まえつつ簿記の基礎を学び、企業内での簿記会計の重要性を理解し、日商簿記検定3級程度の会計知識を身につける。同時に、実際の演習によって、農業簿記ソフト(ソリマチ農業簿記など)を活用して農業簿記の仕組みを学び、農業経営の決算書作成、分析、計画立案のスキルを修得する。これらによって、企業会計と農業簿記の両面から簿記会計の基礎を総合的に理解し、実践的な会計知識を醸成することができる。本演習では、日商の商業簿記の資格取得を実践的にサポートすることも目的とする。			
専門教育	農境報門育	応用科目	アリザン域	アグリデザイン実習	0	アグリデザイン実習では、食料・農業・農村分野における調査活動を実践しながら、その調査手法を修得することを目的とする。 カリキュラムの内容は、まず事前学習で調査研究手法の基礎知識を修得し、フィールドワークにおける調査計画を立てることを学ぶ。次に、学生はカリキュラム内で設定した調査フィールドにて、農業や農村の現状を直接観察しながら現場での経験を積みつつ、現地調査を実施してデータ収集を行う。最終的に収集したデータをもとにその成果を取りまとめ、レポートを作成して発表する。これらの一連の調査活動を通じて、学生は農業・農村についての理解を深めながら、調査研究の実践的スキルを修得することを目指す。			
専門教育	農境報門育	応用科目	アリザン域	地域計画論	0	地域計画に関する知識を提供するため、次の内容を学ぶ。まず、地域計画の歴史、理論、具体的な事例について説明し、次に、計画策定に向けた調査方法、統計資料の使用方法、調査結果の提示方法を示す。また、農協や自治体などで地域計画の策定、推進、見直しに必要な知識を修得する。計画の実施及び見直しに必要なワークショップの手法を学び、実施してコミュニケーション能力を涵養する。さらに、計画の策定から管理まで、地域計画の全体を取り扱う。これにより、地域計画に関わる包括的な知識とスキルを修得する。			
専門教育	農境報門育	応用科目	アリザン域	営農システム論	0	(概要)わが国の農業生産は家族労働が多く、特に労働面と資本面において制約があることから、生産量の拡大には限界が生じる。農業経営を維持するには、個別でできることと集団ですることを明確に区分する必要がある。本講義では、生産性や収益性を向上させている営農システムを対象に、その効果と、酪農等で展開するシステムの現状と課題について理解を深め、加えて合意形成に関する演習を実施し、営農システムを構築する際に重要となる地域の合意形成と問題解決能力について学ぶことを目的とする。 (オムニバス方式/全15回) (6 日向貴久/12回)営農システムの全般、コントラクター、地域の合意形成を担当 (5 吉岡徹/3回)集落営農を担当	オムニバス方式		
専門教育	農境報門育	応用科目	アリザン域	アグリデザイン演習	0	地域社会での実際のニーズに応えるための実践的な資格取得を目指し、食料、農業、経済・経営に関する内容について学習する。そのために、まず地域の特性や課題について理解を深めるための基礎知識を学ぶ。そして、上記に関連する教員および実務者からの講義やケーススタディを通じて、学習した知識や技能を実際の地域課題に適用できるように学ぶ。この授業を通じて、学生は地域社会で求められる専門知識や実務経験に関連した資格取得に向けた準備を行う。			
専門教育	農境報門育	応用科目	地デタイン領域ーサエス域	プログラミング入門	0	教育から産業まで幅広い分野で重要な役割を果たしているプログラミング言語である Python について学ぶ。Python は科学計算のための強力なライブラリを提供しており、複雑な計算やデータ処理を効率的に行うことができるため、特に経済、エネルギー、地理情報データの処理に焦点を当て、Pythonの基本構文、文法、アルゴリズム、関数の使い方を中心に学習する。これにより、実践的なデータ分析スキルを身につけ、Pythonを用いた多様な応用に対応できる能力を身につける。			
専門教育	農境報門育	応用科目	イエ ンス 領域	コンサルティング実践 演習 I	0	課題解決型学習(PBL)を通じて、学生自身が地域課題を発見し、問題の整理・分析および解決法の提案を行い、地域課題の解決に最新のデータサイエンス手法を活用できる人材を目指す。コンサルティング実践演習 I は、高等学校での総合的な探求の学習をアカデミックに発展させるもので、人との関わりから学びへの意欲を育み、知識を事象の裏付けとして学ぶ。課題発見と、それらの解決に必要な場情報の収集力、知識と情報を結び付ける応用力を総合的に養成する。			
専門教育	農境報門育	応用 科目	地デタイン領域ーサエス域	機械学習入門	0	機械学習は、アルゴリズムと統計モデルを用いてデータからパターンや規則性を学習し予測や判断を行う技術であり、データ解析や自然言語処理、画像認識など多様な分野で活用される。これらの役割を通じ、多くの分野で効率向上と新しい価値創造が実現されている。本講義では、機械学習の基本的な概念、技術及び応用について理解を深めるとともに、機械学習の理論的な背景と実際の実装方法を学び、データを活用した問題解決のスキルを身につけることを目標とする。			
専門教育	農境報門育	応用 科目		リモートセンシング基 礎演習	0	本演習では、衛星画像解析のフリーソフトウェア「MultiSpec(マルチスペック)」を用いて、リモートセンシング技術の基礎から応用までを学ぶ。具体的には、リモートセンシングを活用した土地被覆分類や土地利用の変化抽出、環境の長期変動把握などの演習を通して、この技術が企業や行政における意思決定に与える重要性を理解する。これにより、リモートセンシングに関する専門知識を深め、プロフェッショナルとして必要な基盤を学ぶ。			
専門教育	農境報門育	応用科目		コンサルティング実践 演習 Ⅱ	0	課題解決型学習(PBL: Project-Based Learning)を通じて、学生自身が地域課題を発見し、その問題を整理・分析し、解決法を提案するスキルを養う。PBLは、学生が実際のプロジェクトを通じて学習を深める教育手法で、現実の問題に取り組むことで実践的な知識と能力を身につけることが目的であるが、本演習では、地域課題の解決に最新のデータサイエンス手法を活用できる人材を目指し、問題の整理・分析、解決法の提案、提案に必要な表現力を総合的に学ぶ。これにより、実践的なコンサルティング能力を身につけ、地域社会に貢献するスキルの基礎を修得する。			

授業科目の概要								
(農食環境学群 農環境情報学類) 業主								
	科目区分			授業科目の名称	科要目授	講義等の内容	備考	
専門教育	農境報門育	応用科目	地デタイン領域ーサエス域	画像解析AI演習	0	この演習では、画像解析に特化した人工知能技術(AI)の応用を学ぶ。まず、画像処理の概念や手法を理解し、続いて機械学習とディープラーニングを用いた画像解析技術に焦点を当てる。理論と実践の両方を重視し、画像分類、物体検出、セグメンテーションなどの技術を網羅する。さらに、Pythonを使用した実践的な演習を通じて、画像データの前処理、モデル構築、評価までの一連のプロセスを経験する。また、現実のドローン画像などのデータセットを扱い、実際の問題解決に取り組むことで、理論の理解を深めるとともに実践力を養う。最新の研究動向や産業界での応用事例にも触れ、画像解析AIの幅広い応用の可能性を探索する。		
専門教育	農境報門育	応用 科目	地デタイン領域ーサエス域	データサイエンス演習 I	0	地域や組織でデータを活用する際には、それぞれの現状を正確に理解し、問題の構造を紐解く必要がある。データサイエンス演習 I では、観察力に焦点をあて、インタビューやファシリテーション、PCM (Project Cycle Management) 等による現状の理解、問題の発見と整理方法について学習する。また、ケーススタディを通して、整理した問題の裏付けとなるデータの取得方法やデータ中から関連性を見出して現象の解明や要因の分析に役立つ知識を得たり、分析の方法についても学習する。		
専門教育	農境報門育	応用科目		環境モニタリングとリ モートセンシング	0	本講義では、リモートセンシング技術を用いて時間・空間スケールから様々な環境変動のセンサスの方法を紹介する。人工衛星・UAVやそのほかのデバイスのプラットフォーム・センサー技術、解像度、周期などから観測する様々な環境の変動の定量的解析する方法を学ぶ。SDGsの目標の一つにもなっている、「貧困をなくそう」、「気候変動への具体策など」様々な社会問題、環境変動(例えば砂漠化・黄砂・土地の退化・気候変動など)を定量的に捉えるために、マルチスペクトル人工衛星の長期観測の時系列のアーカイブされた衛星データ(例えばランドサットシリーズや最新のSentinel1&2系列など)を用いて解析を行い、環境と生態系の変化のスピード、規模、強度などを求める。実例を挙げながらこれらの問題解決の手法を学ぶ。 (オムニバス形式/全15回) (32 星野仏方/8回)乾燥地の実例を担当 (8 小川健太/7回)乾燥地以外の実例を担当	オムニバス方式	
専門教育	農境報門育	応用科目	地デタイン領域ーサエス域	データサイエンス演習 Ⅱ		データサイエンス演習 I で学んだ基礎を深めながら、実際のデータを用いた高度な分析とその応用に焦点をあてて学ぶ。具体的には、テキストデータ、GPSデータ、衛星画像、センサーデータなど多岐にわたるデータを活用し、パターンの発見やシナリオ分析を通じた意思決定支援を学ぶ。また、データ処理の自動化やシステム設計も重要な要素として取り上げ、実務に即したスキルを修得する。さらに、取得したデータの整理方法やデータのクレンジング、前処理手法についても実践的に学び、データの質を向上させるための技術も学ぶ。		
	教職課程教育		育	教職入門		(概要) 教員免許の取得を目指す者に、今日の学校教育が直面する多様な課題を踏まえ、教職の意義や教員の役割、職務内容について深く考察させる。この過程で、教職に就くために必要とされる資質や適性について理解を深めるとともに、教員として求められる具体的な知識や技能をしっかりと身につけることの大切さを理解させる。理論と実践を織り交ぜながら、教育現場の実情に即した学びを提供し、将来の教員としての土台形成を目的とする。(オムニバス方式/全15回) (1 志賀聡/5回)教職の意義を担当 (43 飛谷淳一/5回)教員の役割を担当 (19 金本吉泰/5回)職務内容を担当		
	教職課程教育			教育原理		教育とは、どのようなことを目指し、どのような人たちを対象とした営みなのか。本講義では、教育がどのような「理念」と「仕組み」の中で、どのように機能しているのかを、様々な事例から学び、そのあり方について考えていく。また、「教育原理」は、教員免許を取得するための基礎科目であり、教員採用試験に多く出題される内容となるので、実際に教員採用試験に出題された問題を活用するなどして求められる知識を身に付け、教育関係職員を志す際に必要とされる資質と能力を養うことを目指す。		
	教職課程教育			教育心理学		教育心理学は、教育に関する理論を理解することから始める。これにより、教育現場での実践や児童・生徒の心理に対する理解が深まる。具体的には、心理学の理論が教育現場や児童・生徒の心理状態とどう結びついているかを学ぶ。学習理論や発達心理学の知識を通じて、児童や生徒の学びのプロセスを理解し、適切な教育支援を提供する能力を養う。また、教育政策や教育改革にも貢献するため、実践的な教育課題に対する理論的なアプローチを修得する。		
	教職課程教育			特別支援教育論		本講義では、教員を目指す学生が特別支援教育についての知識を学び、障害があるために支援を必要とする幼児、児童生徒に対応できる基本的な力を身につける。また、障害とは何かについて学び、それぞれの障害がどのようなものかについて幅広い知識を得ると共に、障害を有する幼児、生徒等が学ぶ場(特別支援学校、特別支援学級、通級指導教室)でどのような指導が行われているのかを理解する。通常の学級で特別なサポートが必要な子どもに対する指導の基本的な考え方を知り、そのようなケースに対応する知識を得る。		
	教職課程教育			教育方法・ICT活用論		教職を志す学生が教育方法論と情報通信技術(ICT)の活用について学ぶ。 具体的には、多様な学習者のニーズに応じた教育方法の理論や実践を学び、ICTを教育現場 で効果的に活用するための知識と技術を身につける。ICTを利用した授業の計画立案や実施 方法、教育内容のデジタル化、学習成果の評価などについても掘り下げて学ぶ。さらに、情 報化社会における教育の変革や課題、教育現場でのICT導入の具体的な効果についても議論 し、実践的な視点から教育改革に対応できる能力を養成する。		

授業科目の概要						
(農食環境学群)		u. y.				
科目区分	授業科目の名称	巻主 神要 講義等の内容 	備考			
教職課程教育	生徒・進路指導論	生徒・進路指導は、学習指導とともに学校教育の両輪であり、講義では全教職関係科目の基礎的力を身に付ける。 生徒指導とは、児童生徒が社会の中で自分らしく生きることができる存在へと自発的・主体的に成長や発達する過程を支える教育活動であり、学校現場では、いじめ、不登校など、生徒指導上の課題も抱えており、教師には生徒指導力の向上が強く求められている。また、進路指導では、生徒ひとりひとりを尊重した進路指導を体系的に行うキャリア教育の概念を理解し、実践できる力が強く求められる。 本講義では、学校現場において適切な生徒・進路指導ができるよう、生徒・進路指導の在り方や方法について体系的に理解する。そして、実践事例をとおして、生徒・進路指導に関する現在の学校が抱える課題について、ディスカッション・グループワーク等で検討、教員としての役割と責任を理解し、生徒の生きる力を育む教育に寄与できる態度を養う。				
教職課程教育	教育課程論	学校教育活動の全体計画である教育課程について、その意義、法令上のきまり、歴史的な変遷、新しい教育課程編成の実際について、「学習指導要領解説総則編」及び配布資料を使用しながら概説する。その上で、現行教育課程の編成・実施の成果や課題、工夫・改善の取組等を調査・考察・発表させる活動を進めるとともに、新学習指導要領改訂の趣旨を理解させるため、新たな教育課程の編成・実施の在り方について考察・発表させる活動も取り入れる。 教育課程論は、学校の骨組みとなる教育課程の理解と学校現場で求められる求められるカリキュラムマネージについての資質と能力を養うことを目指す。教育課程について他の教職科目との関連が深く、教員採用試験で多く出題される内容であることから、具体的な内容を多く取り上げて授業を展開する。				
教職課程教育	教育相談論	本講義では、教育現場で生じる様々な「教育病理」に対して、専門的な相談スキルを修得する。具体的には、個別や集団での生徒や保護者との対話・相談方法、問題解決の技術、そしてカウンセリング理論や心理学の基礎を学ぶ。さらに、教育心理学や発達心理学の知識を活用し、異なるニーズや背景を持つ生徒や家庭とのコミュニケーション能力を向上させる。また、学校内外の支援システムやリソースの活用方法も学ぶ。教育相談の実践を通じて、生徒の学びの課題や心理的ニーズを把握し、適切な支援やアドバイスを提供する能力を養成する。				
教職課程教育	地誌	世界はダイナミックに変化し、人口爆発、環境問題、食料問題、エネルギー問題、領土問題などの課題を抱えている。地球上の状況を把握する地理学は、環境・国際協力・地理情報等の理解の必要性から高等学校の必修科目となっている。地理学と密接に関係する地誌学は、地球上の多様な人間の生活圏における気候、地形、植生などの自然環境、ひとびとの生活、文化、経済、社会などを理解し、わたしたちがまだ見ることのない国、地域のさまざまな課題を解決するための基礎的な知識を得るため必須の学問である。この講義では、いくつかの地域の基礎的な分析をもとに地誌学の魅力を示していく。				
教職課程教育	特別活動論	今日、各学校には、特色ある教育活動や開かれた学校づくりが求められている。「特別活動」は創意工夫の余地の広い活動領域であることから、特色ある学校づくりに大きな役割を果たしてる。また、特別活動は、道徳教育を実践する中核となる等、学校教育目標の具現化に重要な役割を担ってる。本講義では、望ましい集団活動を通して展開される特別活動の目標、内容、教育的意義及び学級・ホームルーム活動、生徒会活動、学校行事についての指導計画、実践・評価の一連の流れを実践事例によるケーススタディやグループワークによる意見交換をとおして学び、特別活動の特性や重要性、指導の在り方について体系的に理解するとともに、学校現場で特別指導を効果的に実践し、生徒の生きる力を育む教育に寄与できる態度を養う。講義では、主として高等学校の特別活動を取り上げる。				
教職課程教育	農業科教育法 I	農業科教育法では、農業科教員としての資質や品格を高め、生徒や保護者ならびに地域の 方々から信頼される人材となるため、講義、実習・演習ならびに教科の指導力向上を目的と して、履修者一人一人による模擬授業を実施する。農業科教育法Iでは、農業科教育の歴史 的背景を含め、基本的な教育理論と指導法を学ぶ。次に学習指導案の構成をその作成方法に ついて学ぶ。また、プロジェクト学習について、企画、学習目標の設定、教材の選定、実施 の計画、評価の方法を、実践的に学ぶ。				
教職課程教育	職業指導 I (農業)	職業指導(農業)では、職業指導の今日的意義、指導の方法、職業適性の理解など広く基礎的な事項とともに、農業教育の立場から職業観の形成、職業生活設計等について考究し、農業科担当教員としての資質能力を養う。具体的には、職業指導 I (農業)では、職業指導の理論と歴史、職業指導の方法・技術、職業観・勤労観、現代における職業指導の課題について学ぶ。なお、本講義では、グループディスカッション、グループ・個人発表、地域との連携等を行いサービスラーニングの手法を身に付ける。				
教職課程教育	社会科・公民科教育法 I	この講義は、高校の「現代社会」・「公共」・「政治経済」の沖縄戦から始める憲法学習、原発とエネルギー問題、被爆体験を学ぶグループ学習、広島・沖縄見学旅行の事前学習、株式の模擬売買などの授業実践、「倫理」の古代ギリシャやキリスト教などの授業実践の紹介を通して、生徒の立場で知識を活用する能力を身につけることを目的とする。学力の三要素である「知識・理解」にかかわって、中学・高校の社会科・公民科の教育内容を学び、さらに戦後の社会科教育の歩みと学習指導要領の変遷の学習を通して、社会科教師として身に付けておく必要がある力について共に考える。				
教職課程教育	社会科・地理歴史科教 育法 I	社会科・地理歴史科教育法では、中学校社会科・高校地理歴史科の教員についての基本的知識を学ぶだけではなく、授業内容や方法に関しての授業実践の例も学ぶ。授業は討論や演習形態を取り入れる。社会科・地理歴史科教育法Iでは、社会科・地理歴史科教育の学習指導要領の変遷、基本的な教育理論、さまざまな指導法を学ぶ。次に学習指導案の構成をその作成方法について学ぶ。また、探求学習についても、企画、学習目標の設定、教材の選定、実施の計画、評価の方法を実践的に学ぶ。				
教職課程教育	教育社会学	教育も社会的背景により変遷を遂げている現状からは、他の分野との関連で内容や課題を考える視座の重要性が看取される。したがって、この講義では狭義の教育社会学を中心としながらも、戦後の日本における社会や労働市場などからの影響と教育を広く関連付けて動向を探り、中でも弱い立場の人々の教育機会の確保について考察を深める。また、生徒の安全や心身の健康を守るためには学校のみではなく地域社会との連携が肝要であることにも触れ、中等教育の教員として持つべき視座に言及したい。				

授業科目の概要						
(農食環境学群	豊環境情報学類)	3H4 3		<u> </u>		
科目区分	授業科目の名称	業主 科要 目授	講義等の内容	備考		
教職課程教育	総合的な学習の時間の 指導法		この講義では、持続可能な社会や地域社会との関わりを理解し、その実践的な意義を学ぶ。年間指導計画を通じて、持続可能な社会の視点を踏まえたテーマや課題を設定し、学習の進め方を計画する。授業形式は実習・演習とグループワークを取り入れ、学習者が自ら課題設定を行い、協力して解決策を探求する。また、検討結果を発表し共有することで、議論を通じた深い学びを促進する。このようなアプローチは、学習者が社会的責任を担う意識を高め、実践的な問題解決能力を養う上で重要である。			
教職課程教育	農業科教育法Ⅱ		農業科教育法では、農業科教員としての資質や品格を高め、生徒や保護者ならびに地域の方々から信頼される人材となるため、講義、実習・演習ならびに教科の指導力向上を目的として、履修者一人一人による模擬授業を実施する。とりわけ、農業科教育法IIでは、Iで修得した知識・技術を活用し、授業の組み立てと展開について、模擬授業をとおし、実践的指導技術として、農業科の実習や実験を効果的に指導するためのさまざまなスキルを学ぶ。さらに、実習の計画と評価も含み、教育目標に基づいて実習の内容を計画し、適切な手順を設定すること、実習後には学習成果を評価し、フィードバックを行うことで、生徒の理解を深めまることを学ぶ。			
教職課程教育	職業指導Ⅱ(農業)		職業指導(農業)では、職業指導の今日的意義(就職指導・進路指導、キャリア教育)、指導の方法、職業適性の理解など広く基礎的な事項とともに、農業教育の立場から職業観の形成、職業生活設計等について考究し、農業科担当教員としての資質能力を養う。職業指導II(農業)では、Iで修得した知識・技術を活用し、職業指導の理論と実践について、グループディスカッション、グループ・個人発表、地域との連携等を行いサービスラーニングの手法を用い、実践的に学ぶ。			
教職課程教育	社会科・公民科教育法 II		この講義は、社会科・公民科教育法 I の講義内容をふまえて、授業を展開する上で必要とされる実践的・臨床的な手法を学ぶことを目的とする。社会科・公民科教育についての専門的な知識や技能を基にした授業計画案づくりを行うとともに、社会科の授業の中で用いるグループ学習などアクティブ・ラーニングの手法について実践的に学び身に付ける。さらに、受講者全員の模擬授業にもとづいて協議し、社会科・公民科の授業を行う上で必要な知識や技術の基礎的な力量を養う。			
教職課程教育	社会科・地理歴史科教 育法 II		社会科・地理歴史科教育法では、中学校社会科・高校地理歴史科の教員についての基本的知識を学ぶだけではなく、授業内容や方法に関しての授業実践の例も学ぶ。授業は討論や演習形態を取り入れる。 社会科・地理歴史科教育法IIでは、Iで修得した知識・技術を活用し、授業の組み立てと展開について、模擬授業により、効果的に指導するためのさまざまなスキルを学ぶ。さらに、教育目標に基づいて授業を計画し、適切な手順を設定し、学習成果を評価し、フィードバックを行うことで、生徒の理解を深める。			
教職課程教育	道徳教育指導論		道徳教育は、教育基本法及び学校教育法に定められた教育の根本精神を踏まえ、自己の生き方や人間としての生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性を育成する教育活動である。道徳の意義や原理等を踏まえ、学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育及びその要となる道徳科の目標や内容、指導計画等を体系的に理解するとともに、教材研究や学習指導案の作成、模擬授業等を通して、批判的・論理的思考力のもと、実践的な指導力を身に付ける。講義では、中学校での特別の教科「道徳」を中心に取り上げ、読み物教材や視聴覚教材、郷土の歴史等地域の資料を活用するとともに、ディスカッションやグループワーク等を組み入れながら実施する。道徳教育は、青少年期の発達段階における人格形成のための核となる教科であり、そのため中学校教員免許取得のための必須教科となっている。			
教職課程教育	教育実習(中・高 1 免)		(概要) 学内での演習においては、教育実習に臨む上での注意点、授業を展開する上で必要な点の再確認のため、各自模擬授業を行う。特に、主体的・対話的で深い学びやICTの効果的な活用について、自ら考えながら授業の組み立てを行う。教育現場での実習では、受け入れ校の担当教員の指導のもとで、授業観察、参加、実習を行い、実践的なトレーニングを行う。講義の最終回では、成果と課題を分析しながら学習計画の策定と教師や社会人としての自己の在り方について振り返るとともに、結果報告会を通じて全体で成果を共有する。全講義をとおして教員の社会的な役割と責任を理解するとともに、教員として生徒を指導する上で必要な知識・技術、実践力を身に付ける。(オムニバス方式/全15回)(1 志賀聡/5回)教育実習での注意点、授業を展開での注意点(43 飛谷淳一/5回)教育実習の授業指導・生徒指導(19 金本吉泰/5回)日誌・指導案の内容	オムニバス方式		
教職課程教育	教育実習(高1免)		(概要) 学内での演習においては、教育実習に臨む上での注意点、授業を展開する上で必要な点の再確認のため、各自模擬授業を行う。特に、主体的・対話的で深い学びやICTの効果的な活用について、自ら考えながら授業の組み立てを行う。教育現場での実習では、受け入れ校の担当教員の指導のもとで、授業観察、参加、実習を行い、実践的なトレーニングを行う。講義の最終回では、成果と課題を分析しながら学習計画の策定と教師や社会人としての自己の在り方について振り返るとともに、結果報告会を通じて全体で成果を共有する。全講義をとおし、教員の社会的な役割と責任を理解するとともに、教員として生徒を指導する上で必要な知識・技術、実践力を身に付ける。(オムニバス方式/全15回)(1 志賀聡/5回)教育実習での注意点、授業を展開での注意点(43 飛谷淳一/5回)教育実習の授業指導・生徒指導(19 金本吉泰/5回)日誌・指導案の内容	オムニバス方式		
教職課程教育	教職実践演習(中・高 1 免)		教職実践演習では、これまで学んだ全ての教職科目の総復習で、4年間で身につけた資質・能力が教員としての最小限必要な資質能力として備わったかを確認し、必要に応じて不足している知識や技能等を補う。これらにより、教職生活を円滑にスタートできる能力を養う。各講義の中で受講者による相互ディスカッションや教科指導に必要とされる授業計画と生徒指導力及び各種研究力を向上するとともに、教育現場で必要とされる知識と技能、コミュニケーション能力を養う。また、各コースの活動を通じて、教師としての使命と子どもの実態についての理解を深め、教育職としてのさらなる実践力を学ぶ。			

学校法人 酪農学園 設置認可等に関わる組織の移行表

令和7年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員
酪農学園大学			
農食環境学群 循環農学類	240	_	960
食と健康学類	160	_	640
環境共生学類	120	_	480
以 以 以 以 以 以 以 以 以 以 以 以 り り り り り り り り	120	_	400
獣医学群	120		F20
獣医学類	120	_	720
獣医保健看護学類	60	_	240
<u></u> 計	700		2 040
ĒΤ	700		3,040
酪農学研究科 酪農学専攻(M) フードシステム専攻(M) 食品栄養科学専攻(M) 食生産利用科学専攻(D) 食品栄養科学専攻(D)	6 6 6 2 2	- - - -	12 12 12 6 6
獣医保健看護学専攻(M)	3	_	6
獣医学専攻(D)	3	_	12
四位14次(0)	3		12
計	28		66

令和8年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
酪農学園大学				
農食環境学群 循環農学類 食と健康学類 環境共生学類 <u>農環境情報学類</u>	200 140 100 80	- - -	560 400	
獣医学群 獣医学類 獣医保健看護学類	120 60	- -	720 240	
計	700		3, 040	
酪農学研究科 酪農学専攻(M)	<u>12</u> 0	-	<u>24</u> 0	定員変更(6) 令和8年4月学生募集停止
 食品栄養科学専攻(M)	<u>u</u> 6	_	12	节和0千4万于工务未停止
食生産利用科学専攻(D)	2	_	6	
食品栄養科学専攻(D)	2	_	6	
獣医学研究科 獣医保健看護学専攻(M) 獣医学専攻(D)	3	- -	6 12	
<u></u> 計	28		66	